授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
日本国憲法		講義	太田　正
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　２単位	配当学年・時期 １学年　後期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
日本国憲法の基礎知識を理解する。

〔授業全体の内容の概要〕
日本国憲法の基礎知識を中心に解説していく。
日本国憲法の目指す人間像及び国家の原理についての考察。

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
日本国憲法の基礎知識を理解させる。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法
1　導入　法とは。日常生活と法
2　法について　常識と法。法と道徳。
3　憲法の歴史　大日本帝国憲法について。
4　憲法の歴史　現憲法の成立過程。
5　国民の権利及び義務　基本的人権について。
6　国民の権利及び義務　プライヴァシーの権利。
7　国民の権利及び義務　国民の生存権
8　国民の権利及び義務　国の保障義務
9　戦争の放棄　平和主義について
10　国会　国会の地位
11　国会　両院制他
12　内閣　行政権と内閣、衆議院の優越他
13　司法　司法権の独立、裁判の公開他
14　地方自治　地方自治の原則、住民投票
15　財政等　財政、改正条項他

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など）
コンパクト六法等	定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
健康科学		講義	長田　先生
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　１単位	配当学年・時期 １学年　後期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕

健康・体力に関する知識、関心を高め合理的な運動実践を習慣化する為の方策を検討していく。

〔授業全体の内容の概要〕

身体運動が体力の保持向上に役立ち、健康が維持増進の手段として実施されるには、ただ漠然と運動を行うのではなく、その目的を充分に果たす運動の質と量の選択が必要になる。

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕

健康・体力に関する知識、関心を高め、運動処方を学ぶことにより新しい健康観をもち、一生の健康づくりの基となるようにする。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

1　健康という言葉　健康観の変遷　①古代②中世③近代
2　健康の定義　WHO の定義、生活概念としての健康、健康と疾病
3　現代社会の健康阻害要因　健康障害を引き起こす様々な要因について
4　身体運動と健康　現代の子ども達の現状　①体力低下②肥満児
5　体力の概念、体力の構成要素１　BMI①防衛体力②行動体力
6　体力の構成要素２　形態・機能の発育　②行動体力スキャモンの発達曲線
7　年齢に応じた運動　①動き作り系統的発生動作、個体発生的動作
8　生活におけるトレーニング　運動処方№１　運動処方とは
9　運動処方№２　トレーニングの法則
10　運動処方№３　処方の手順
11　運動処方№４　運動の質と量①運動強度１）酸素摂取量
12　運動処方№４　運動の質と量①運動強度２）最大酸素摂取量
13　運動処方№５　運動の質と量①運動強度３）METS４）自覚的運動強度
14　運動処方№６　心拍数と酸素摂取量からとらえる　効果面からみた適性運動強度
15　まとめ

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など）
順次指示する。	定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
英会話Ⅰ		演習	原田　久美子
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ４５時間　２単位	配当学年・時期 １学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕

日常の会話を英語でも楽しむことができるようする。

〔授業全体の内容の概要〕

簡単な会話に欠くことができない、基礎的な事柄を練習問題を交えて身につける。

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕

英語による会話に馴染み、英語力英会話力を高めることを目標とする。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

コマ数

1　イングリッシュコミュニケーションレッスン１「自己紹介」の会話表現を学び実際に使えるように練習する。

2　英文を読んでみましょう。

3　イングリッシュコミュニケーションレッスン２「家族と友達」に関する会話

4　英文を読んでみましょう。

5　イングリッシュコミュニケーションレッスン３「家と私の町」に関する会話

6　英文を読んでみましょう。

7　イングリッシュコミュニケーションレッスン４「余暇と休日」に関する会話

8　英文を読んでみましょう。

9　イングリッシュコミュニケーションレッスン５「テレビと映画」に関する会話

10　英文を読んでみましょう。

11　イングリッシュコミュニケーションレッスン６「食べ物と飲み物」に関する会話

12　英文を読んでみましょう。

13　イングリッシュコミュニケーションレッスン７「行き先案内」に関する会話

14　英文を読んでみましょう。

15　まとめ　（スクーリング１５時間は、上記のシラバスに関連した内容となる）

〔使用テキスト・参考文献〕 プリント	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 情報処理入門Ⅰ		授業の種類 演習	授業担当者 緒賀 正浩
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ４５時間　２単位	配当学年・時期 １学年　前期　３学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
現在では、業種・職種を問わずほとんどの職場においてパソコンの利用スキルが求められる。本授業では、特に利用頻度の高い事務系ソフトの基礎的な利活用方法を、演習を通して習得することを目標とする。
〔授業全体の内容の概要〕
代表的なオフィススイートである、Word(ワープロ)・Excel(表計算)・PowerPoint(プレゼンテーション)の３つのソフトウェアの概念や利活用方法を概観し、演習を通して理解の定着を図る。

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
Word(ワープロ)・Excel(表計算)・PowerPoint(プレゼンテーション)の基礎的な利活用方法を、演習を通して習得することを目標とする。

※情報処理入門Ⅰについては、１つのクラスを①グループ～③グループに分けて実施する。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

1　Word の基本操作、文字の入力、フォント設定
2　同上
3　段落の設定、ページレイアウトの設定、印刷
4　同上
5　画像（写真、クリップアート、ワードアート）の取り込みと編集
6　同上
7　図形描画機能の利用
8　同上
9　Word 総合演習（チラシの作成）
10　同上
11　Excel の基本操作、文字・セル・罫線の設定
12　同上
13　計算式の入力、基礎的な関数
14　同上
15　まとめ

※スクーリングは、上記のシラバスの内容に準じて実施する。

〔使用テキスト・参考文献〕 必要に応じて Word・Excel・PowerPoint に関する市販の参考書を参照することを勧める。	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
生涯スポーツ		実技	長田先生
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　１単位	配当学年・時期 １学年　後期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
スポーツのイメージであった従来型の「競う、勝敗にこだわる」から社会的機能をはらんだ「市民スポーツ」へと変化しつつある現状をふまえ、スポーツの持つ人生を豊かにし充実したものとするための基本的理解をする。
〔授業全体の内容の概要〕
スポーツ実技

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
スポーツの持つ人生を豊かにし充実したものとするための基本的理解をする。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

1　生涯スポーツとは、２１世紀の我が国の生涯スポーツの基本的考え方
2　スポーツの概念　B.ジレ　スポーツ概念に共通する３つの要素
3　スポーツの概念
4　スポーツの現代的理解
5　スポーツの現代的理解
6　スポーツの本質的特性①
7　スポーツの本質的特性②
8　スポーツの本質的特性③
9　社会生活の変化とスポーツ　余暇とは①
10　社会生活の変化とスポーツ　余暇とは①
11　スポーツ参加の現状と課題、国民のレジャー活動とスポーツ
12　国民スポーツの諸相　学校スポーツ、地域スポーツ
13　軽スポーツ
14　球技スポーツ
15　生涯スポーツ　まとめ

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など）
なし	定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
教育原理		講義	外岡　博之
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　２単位	配当学年・時期 １学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
「人間」を育てる教育を考える。
〔授業全体の内容の概要〕
教育の意義、目的について理解する。
教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。
教育の制度について理解する。
教育実践のさまざまな取り組みについて理解する。
〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
教育の基本となる人間観・人権論を理解する。
自ら受けてきた教育を振り返り、今自分が受けている教育を考え、ここから先自らをどう教育していくかを考える。
一生にわたる人間形成の見通しを持った上で、乳幼児期の教育のあり方を考える。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数
1　教育原理のオリエンテーション
2　教育は今　①　教育現場の様々な問題
3　教育は今　②　モノの教育から人間の教育へ（１）
4　教育は今　③　モノの教育から人間の教育へ（２）
5　教育は今　④　モノの教育から人間の教育へ（３）
6　教育は今　⑤　国家中心の教育から国民中心の教育へ
7　教育は今　⑥　教育の原理を考える。
8　教育は今　⑦　これからの教育
9　教育とは何か　①　人間の特質と教育
10　教育とは何か　②　教育を成立させる要素
11　教育とは何か　③　教育と人権
12　学校を考える　学校・家庭
13　学校を考える　地域
14　人間を育てる教師①
15　人間を育てる教師②

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など）
内海崎貴子編著「教職のための教育原理」 八千代出版	定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
教育心理学		演習	福本　敏宏
授業の回数 １０回	時間数（単位数） １５時間　１単位	配当学年・時期 １学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める。
生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する。
保育における発達援助について学ぶ。

〔授業全体の内容の概要〕
保育の実践にかかわる心理学について演習形式で授業を行います。子どもの発達や学び、その支援方法について具体的な事例をもとに学んでいきます。保育実践について、自ら考え、学生同士で話し合うことで理解を深めます。

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
保育実践における子ども理解の方法を身につけ、応用できる。
保育実践における具体的な支援方法（かかわり方、環境づくり）を考えることができる。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数
1　「学びの場の中の子ども」　発達に関する基礎概念
2　発達（1）発達論①　運動・認知発達について
3　発達（2）発達論②　ことばと社会性の発達
4　学びと遊びと環境　主体的な学びを支えるものと発達
5　学習の基礎（1）記憶　知識と問題解決
6　学習の基礎（2）学習理論
7　学びや探究を支えるもの　動機づけ・集団づくり・学習評価
8　学習指導・発達支援の基礎（1）学び育つ者と教え育む者の関係論
9　学習指導・発達支援の基礎（2）学びと育ちの多様性
10　学習指導・発達支援の基礎（3）教育と支援

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など）
プリント	定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

<table>
<tr><td colspan="2">授業のタイトル（科目名）
幼児の心理学</td><td>授業の種類
演習</td><td>授業担当者
福本　敏宏</td></tr>
<tr><td>授業の回数
１５回</td><td>時間数（単位数）
３０時間　１単位</td><td>配当学年・時期
１学年　前期</td><td>必修・選択
必修</td></tr>
<tr><td colspan="4">〔授業の目的・ねらい〕
子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める。
生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する。
保育における発達援助について学ぶ。

〔授業全体の内容の概要〕
保育の実践にかかわる心理学について演習形式で授業を行います。子どもの発達や学び、その支援方法について具体的な事例をもとに学んでいきます。保育実践について、自ら考え、学生同士で話し合うことで理解を深めます。
〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
保育実践における子ども理解の方法を身につけ、応用できる。
保育実践における具体的な支援方法（かかわり方、環境づくり）を考えることができる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数
1　はじめに（講義を始めるにあたって）
2　講義の進め方と講義の対象・課題
3　子ども理解と保育実践１　子ども理解と保育実践
4　子ども理解と保育実践２　行動観察と理解
5　子ども理解と保育実践３　発達援助と理解
6　子どもと保育者とのかかわり１　環境としての保育者
7　子どもと保育者とのかかわり２　個人差に応じたかかわり
8　子どもと保育者とのかかわり３　子ども集団へのかかわり
9　子ども相互のかかわり１　子ども間のコミュニケーション
10　子ども相互のかかわり２　自己主張と協調
11　子ども相互のかかわり３　遊びの中の学び
12　保育場面における環境づくり１　学びを促す環境
13　保育場面における環境づくり２　主体性を促す環境
14　保育場面における環境づくり３　生活を支える環境
15　まとめ　重要事項の確認</td></tr>
<tr><td colspan="2">〔使用テキスト・参考文献〕
プリント</td><td colspan="2">〔単位認定の方法及び基準〕
（試験やレポートの評価基準など）
定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">実務経験のある教員による授業</td><td colspan="2">スクールカウンセラーとして小中学校でしごとをしていた。</td></tr>
</table>

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 造形表現（指導法）		授業の種類 演習	授業担当者 谷口　祐子
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　１単位	配当学年・時期 １学年　後期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
保育現場での絵画製作を実際に行うことで、幼児の理解を深める。

〔授業全体の内容の概要〕
クレヨン、クレパスについて、点繋ぎ、袋作り、折り紙遊び等

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
絵画や造形活動を楽しく行い、テクニックを磨く。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数
1　クレヨン、クレパスについて、仲間さがしとその理解。
2　点繋ぎ　色の使い方や形についての理解を深める。
3　袋作り　作った作品を大切にするための方法。
4　折り紙遊び　折り紙の指導の仕方について。
5　折り紙遊び　動く折り紙の折り方。
6　点描　あじさい　点描の楽しさの理解や作品を作りあげる根気強さについて。
7　点描　あじさい　幼児の絵を見せる、葉の部分はスタンピング。
8　綿棒を使ってのカード作り　乳幼児が扱いやすい教材を知る。
9　ポーズ人形作り　１枚の紙から作る便利さを知る。人体の等分を知る。
10　ポーズ人形から人体へ　人の動きについて理解する。
11　野菜のスタンプ　いろいろな形に気づく、スタンプの楽しさに気づく。
12　スイカ作り　スイカのタネを通じて、観察力を身につける。(幼児の絵を参考)
13　冷蔵庫作り　身近な題材に気づく。
14　折り紙（切り絵模様）偶然の模様を楽しむ。
15　表情を作る（紙テープから）表情の変化を楽しみ、作る楽しさを知る。

※スクーリングは上記のシラバスに準じた内容で実施する。

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など）
なし	定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 健康（指導法）		授業の種類 演習	授業担当者 渡部　貴子
授業の回数 １０回	時間数（単位数） １５時間　１単位	配当学年・時期 １学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕

保育所・幼稚園に通う子ども達の年齢構成は、乳幼児であり、自らの健康を自らの力で保持増進することはできない。そのため子ども達の健全な心身の発達をはかるための保育においては、保育者が子ども達の健康の保持・増進を行い、健全な発育と発達を支援していくことが不可欠である。

健康とは何か、このことをめぐる事柄について学生とともに理解を深めていく。

〔授業全体の内容の概要〕

健康とは何かを学ぶ。

乳幼児の成長、基本的生活習慣、子どもの事故と安全、乳幼児期の主な疾患と対応。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕

健康とは何か、その実現のための知識と実践の力を養うことを目標とする。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

コマ数

1　オリエンテーション

2　乳幼児の健康

3　乳幼児の成長　1　からだの育ち

4　　2　心の育ち

5　基本的生活習慣　（重要性、基本的生活習慣、おやつ）

6　子どもの事故と安全指導

7　乳幼児の健康状態の把握

8　乳幼児における主な疾患と対応　急性疾患、慢性疾患

9　　感染症、食中毒

１０　まとめ

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
プリント	（試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 人間関係（指導法）		授業の種類 演習	授業担当者 外岡　博之
授業の回数 １０回	時間数（単位数） １５時間　１単位	配当学年・時期 １学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
人との関わりの発達
〔授業全体の内容の概要〕
人との関わりを育てる保育者として、子どもが自分らしくいきいきできる人間関係の場をどうつくっていくか学ぶ。

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
保育園では、子どもたち一人一人を生かした集団を形成しながら人と関わる力を育てていく。そのために子どもの行為の意味を考える力をつけることが目標である。そして、子どもが効力感を持てるような体験を促す援助方法を学ぶ。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
1　ガイダンス
2　領域「人間関係」について
3　人との関わりの発達
4　家族とのかかわり
5　家族外の人とのかかわり
6　かかわりの発達を育てるもの
7　ひととのかかわりを見る視点
8　共感　おもいやりを示すとき
9　社会的ルールの特質・イメージの共有
10　けんかの仲裁を考える
11　いざこざ
12　保育者の役割　園の中で
13　保育者の役割　地域の中で
14　多様な保育形態と遊び
15　自己表現の練習
※なお、このシラバスの番号は内容を示すだけで、回数とは一致しない。

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など）
河辺貴子「遊びを中心とした保育－保育記録から読み解く「援助」と「展開」萌文書林	定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 音楽表現（指導法） （告示等による教科目名） 保育の内容・方法に関する科目		授業の種類 演習	授業担当者 五日市　田鶴子 増田　千夏 梶浦　晃代
授業の回数 １０回	時間数（単位数） １５時間　１単位	配当学年・時期 １学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
音楽理論の基礎、ピアノの基礎の習得
〔授業全体の内容の概要〕音楽理論、ピアノ
〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
音楽の基礎的な知識を身につけるために、音楽の三要素であるメロディ（旋律)・リズム（律動)・ハーモニー（和声）に基づき、音符、音名、音程、和声そして音階等を学び楽譜の総合的把握、分析ができるようになる。
ピアノの初心者にとっては最初の導入が大事であり日々の練習と予習が必ず成果を出す事を学ぶ。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
1　音の種類と性質（音楽と噪音・音の三要素・三方面・音名）
2　説明　B（バイエル）1，2，3，4，5，6番
3　音の種類と性質と楽譜（一）譜表・音符・休符・連符
4　B　7，8，9，１0，１1，１2番
5　楽譜（二)・拍子とリズム
6　B　１3、１4、１5、１6、１7番　ぶんぶんぶん
7　変化記号
8　B　１8、１9、２0、２1、ちょうちょう
9　速度標語・強弱記号
10　B　２2、２3、２4、２5、8分音符の説明
11　音程（度数の数え方・一度から八度まで)
12　B　２6、２7、２8、２9、メリーさんの羊
13　音程（度数の数え方・一度から八度まで完全・長短、増減)
14　B　２6、２7、２8、２9、メリーさんの羊
15　音程（度数の数え方・一度から八度まで完全・長短、増減)
16　B　２6、２7、２8、２9、メリーさんの羊
17　音程
18　B　３0、３1、３2、３3、３4
19　音程
20　B　３5、３6、リズム曲集より№1
21　楽譜（省略法、装飾音、装飾記号、発想標語)
22　B　３7、３8、３9、リズム曲集より№2
23　楽譜（省略法、装飾音、装飾記号、発想標語)

24　B　３７、３８、３９、リズム曲集よりNo.２ 25　楽譜 26　B　４０、４１、４２、４３、リズム曲集よりNo.３ 27　楽譜 28　B　４０、４１、４２、４３、リズム曲集よりNo.３ 29　楽譜 30　B　４４、４５、４６、リズム曲集よりNo.４ ※このシラバスは、年間を通して指導する内容を示したものである。このスクーリングにおいては、この内容を踏まえて、試験が課せられる。	
〔使用テキスト・参考文献〕 バイエル教本、プリント	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 環境（指導法）		授業の種類 演習	授業担当者 久保田　ひろ子
授業の回数 １０回	時間数（単位数） １５時間　１単位	配当学年・時期 １学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
環境（指導法）について、校外学習を通してより深く体験的に理解を深める。

〔授業全体の内容の概要〕
幼稚園教育要領や保育所保育指針を踏まえつつ、子どもの発達・環境構成・遊びの援助といった
従来からの枠組みを再確認しつつ、子どもの知的好奇心について考える機会とする。

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
自分自身で学び取った「気づき」の感覚を身をもって体験し、子どもの内なるものを引き出すという、
児童中心主義的な保育の立場を改めて学ぶ。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数
1　オリエンテーション、フレーベルの保育思想
2　演習（パズル）
3　環境にかかわる力とは
4　幼稚園教育要領・保育所保育指針の枠組み
5　演習（事例）
6　新江の島水族館の別館にて、体験学習をする。
7　バックヤードツアーに参加する。
8　グループ行動をする形で、館内を見学する。
9　イルカ・ショーを見学する。
１０　まとめ

〔使用テキスト・参考文献〕 プリント等	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 言葉（指導法）		授業の種類 演習	授業担当者 久保田先生
授業の回数 １０回	時間数（単位数） １５時間　１単位	配当学年・時期 １学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
言葉の機能と性格について理解を促し言葉の特色を学びとる。

〔授業全体の内容の概要〕
言葉の集積である文章を読み、その内容を把握し、学生（読み手）が著者（書き手）との対話（読み）を通じ、新たな意味を獲得する過程～テクスト論―を実践的に学習する。

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
読書行為によって学生の主体的思考を醸成する。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数
1　はじめに（講義を始めるにあたって）
2　５領域における「言葉」の位置づけ
3　言葉の原理（１）絵から言葉へ
4　言葉の原理（１）言葉の働き
5　言葉の原理（１）言葉と想像力
6　言葉の原理（２）言葉から見た過去・現在・未来
7　言葉の原理（２）助詞について
8　言葉の原理（２）名詞、固有名詞、代名詞など
9　身体と言葉　児童教育に関わる上で「身体」に留意することは、とりわけ、重要である。言葉と身体の関係を知る。
10　言葉の多様性　①同音異議語
11　言葉の多様性　②反対語
12　言葉の多様性　③類義語
13　言葉と文章（１）エッセイスト「ことばとテクスト」(外山滋比古)
14　言葉と文章（２）社会学者「人間関係」(加藤秀俊)
15　言葉と文章（３）詩人「コミュニケーション」(大岡信)
※なお、このシラバスの番号は内容を示したものであり、回数とは一致しない。

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
河辺貴子　遊びを中心とした保育、保育記録から読み解く「援助」と「展開」 萌文書林	（試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
幼児と音楽表現		演習	五日市　田鶴子 増田　千夏 梶浦　晃代
授業の回数 １０回	時間数（単位数） １５時間　２単位	配当学年・時期 １学年　後期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕

声楽の基礎、応用、ピアノの基礎、応用を習得

〔授業全体の内容の概要〕

声楽、ピアノ

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕

音楽が乳幼児期の子どもの人間形成に多くの影響を与えると言われています。声楽では、幼児期に必要な「歌う」という活動について指導するための基礎機能をを下記の教材をつかってしっかり学ぶよう指導したい。（１）発声法・呼吸法（２）コールユーブンゲン（３）コンコーネ５０番　（４）童謡曲の歌唱法（５）合唱（６）手遊び

ピアノ経験者、もしくは中級者以上であってもバイエル教則本は、基礎として、しっかりと学び、その他に、応用力と就職を考慮し、童謡曲、ソナチネアルバム、その他の曲をしっかりと練習して弾く事を学ばせていくことに重点をおく。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

コマ数

1　呼吸法・発声法・童謡曲・合唱及び　手遊び　2　Ｂ４７～４８番　BM　or　ST
3　呼吸法・発声法・童謡曲・合唱及び　手遊び　4　Ｂ４９～５０番　リズム曲集より（3.4 番）
5　呼吸法・発声法・童謡曲・合唱及び　手遊び　6　Ｂ５１～５３番　BM　or　ST
7　呼吸法・発声法・童謡曲・合唱及び　手遊び　8　Ｂ５４～５５番　童謡：たなばた
9　呼吸法・発声法・童謡曲・合唱及び　手遊び　10　Ｂ５６～５８番　BM　or　ST
11　呼吸法・発声法・童謡曲・合唱及び　手遊び　12　Ｂ５９～６０番　童謡：大きな古時計
13　呼吸法・発声法・童謡曲・合唱及び　手遊び　14　Ｂ６１～６２番　童謡：小さい秋みつけた
15　呼吸法・発声法・童謡曲・合唱及び　手遊び　16　Ｂ６３～６４番　童謡：犬のおまわりさん
17　呼吸法・発声法・童謡曲・合唱及び　手遊び　18　C（ツェルニー１００番より）BM ST etc
19　呼吸法・発声法・童謡曲・合唱及び　手遊び　20　C（ツェルニー１００番より）BM ST etc
21　呼吸法・発声法・童謡曲・合唱及び　手遊び　22　Ｃ１００番より童謡：せんせいとおともだち
23　呼吸法・発声法・童謡曲・合唱及び　手遊び　24　童謡：おはよう
25　呼吸法・発声法・童謡曲・合唱及び　手遊び　26　童謡：おべんとう
27　呼吸法・発声法・童謡曲・合唱及び　手遊び　28　童謡：おかえりのうた
29　呼吸法・発声法・童謡曲・合唱及び　手遊び　30　童謡：こんこんくしゃん

※このシラバスは、年間を通して指導する内容を示したものであり、このスクーリングではこの内容を踏まえて、試験が課せられる。

〔使用テキスト・参考文献〕 プリント、バイエル教本	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
音楽表現技術		演習	五日市　田鶴子 増田　千夏 梶浦　晃代
授業の回数 １０回	時間数（単位数） １０時間　１単位	配当学年・時期 ２学年　後期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕

声楽の基礎、応用、ピアノの基礎、応用を習得

〔授業全体の内容の概要〕

声楽、ピアノ

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕

音楽が乳幼児期の子どもの人間形成に多くの影響を与えると言われています。声楽では、幼児期に必要な「歌う」という活動について指導するための基礎機能をを下記の教材をつかってしっかり学ぶよう指導したい。（１）発声法・呼吸法（２）コールユーブンゲン（３）コンコーネ５０番　（４）童謡曲の歌唱法（５）合唱（６）手遊び

ピアノ経験者、もしくは中級者以上であってもバイエル教則本は、基礎として、しっかりと学び、その他に、応用力と就職を考慮し、童謡曲、ソナチネアルバム、その他の曲をしっかりと練習して弾く事を学ばせていくことに重点をおく。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

コマ数

1　呼吸法・発声法・童謡曲・合唱及び　手遊び　2　Ｂ４７～４８番　BM　or　ST
3　呼吸法・発声法・童謡曲・合唱及び　手遊び　4　Ｂ４９～５０番　リズム曲集より（3.4 番）
5　呼吸法・発声法・童謡曲・合唱及び　手遊び　6　Ｂ５１～５３番　BM　or　ST
7　呼吸法・発声法・童謡曲・合唱及び　手遊び　8　Ｂ５４～５５番　童謡：たなばた
9　呼吸法・発声法・童謡曲・合唱及び　手遊び　10　Ｂ５６～５８番　BM　or　ST
11　呼吸法・発声法・童謡曲・合唱及び　手遊び　12　Ｂ５９～６０番　童謡：大きな古時計
13　呼吸法・発声法・童謡曲・合唱及び　手遊び　14　Ｂ６１～６２番　童謡：小さい秋みつけた
15　呼吸法・発声法・童謡曲・合唱及び　手遊び　16　Ｂ６３～６４番　童謡：犬のおまわりさん
17　呼吸法・発声法・童謡曲・合唱及び　手遊び　18　C（ツェルニー１００番より）BM ST etc
19　呼吸法・発声法・童謡曲・合唱及び　手遊び　20　C（ツェルニー１００番より）BM ST etc
21　呼吸法・発声法・童謡曲・合唱及び　手遊び　22　C　１００番より童謡：せんせいとおともだち
23　呼吸法・発声法・童謡曲・合唱及び　手遊び　24　童謡：おはよう
25　呼吸法・発声法・童謡曲・合唱及び　手遊び　26　童謡：おべんとう
27　呼吸法・発声法・童謡曲・合唱及び　手遊び　28　童謡：おかえりのうた
29　呼吸法・発声法・童謡曲・合唱及び　手遊び　30　童謡：こんこんくしゃん

※このシラバスは年間を通して指導される内容を示したものであり、このスクーリングではこの内容を踏まえて、試験が課せられる。

〔使用テキスト・参考文献〕 プリント、バイエル教本	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
幼児と造形表現		演習	谷口　祐子
授業の回数 １０回	時間数（単位数） １５時間　１単位	配当学年・時期 ２学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
乳幼児に適切な玩具を作成し、手作りの良さを学ぶ。

〔授業全体の内容の概要〕
材料や用具、様々な技法について体験し理解する。

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
乳幼児が喜ぶ遊びを知り、物作りによって色彩感覚を高める。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数
1　白と黒の対比　黒の色画用紙を切り抜き、白の画用紙の上で対称になるように組み合わせ貼る。
2　パペット製作　靴下を利用して人形を作る。
3　パペット製作　顔の部分を作る、洋服を作る。
4　パペット製作　顔の部分を作る、洋服を作る。
5　パペット製作　仕上げ
6　メロディーフォン作製　音の出方に気を配り、個性豊かな模様付をする。
7　マジックカード作り　数字の組み合わせを考える、子どもが喜ぶ図を考え、下描きをする。
8　マジックカード作り　種類を間違えないように作成する。
9　マジックカード作り　丁寧に仕上げる。
10　ステンドグラス作製　クリスマスをテーマに作り始める。切り抜く大きさ等の説明をして、下描きをする。
11　ステンドグラス作製　机に傷をつけないようベニヤ板を敷きその上からカッターで切り抜く。
12　ステンドグラス作製　机に傷をつけないようベニヤ板を敷きその上からカッターで切り抜く。
13　ステンドグラス作製　丁寧に仕上げる。
14　独楽作り　簡単にできる独楽の説明をし、個性を引き出せることを伝える。
15　鬼のお面作り　想像力を働かせ、実際にかぶれる物を作る。
※なお、このシラバスの番号は内容を示したものであり、回数とは一致しないは。

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など）
なし	定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
幼児と健康		演習	今井　修
授業の回数 １０回	時間数（単位数） １５時間　１単位	配当学年・時期 ２学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
「今の時代を生きる子どもたち」に対する運動あそびのもつ教育的意義について説明できる。
各種の運動あそびを素材とした短期の指導計画を作成することができる。
〔授業全体の内容の概要〕
幼児期の運動あそびを追体験することを通して、保育者として必要な運動あそびのレパートリーを増やすこととバリエーションの拡げ方を理解するとともに、運動あそびの指導に必要な保育技術についても検討したい。また、運動指導の系統性に関する理論学習や保育実践記録の分析によって就学前体育の実践課題についても検討する。
〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
運動あそびの「ねらい」を実現するために必要な効果的な指導技術を習得する。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数
1　オリエンテーション
2　アイスブレーキングゲーム
3　コミュ二ケーションゲーム長なわを使った運動あそび
4　コミュ二ケーションゲーム長なわを使った運動あそび
5　ボールを使った運動あそび
6　ボールを使った運動あそび
7　短なわを使った運動あそび
8　短なわを使った運動あそび
9　フープを使った運動あそび
10　新聞紙を使った運動あそび
11　新聞紙を使った運動あそび
12　鬼あそび（集団づくりの実践記録の分析）
13　鬼あそび（集団づくりの実践記録の分析）
14　反射的運動の段階、初歩的運動の段階における指導・援助について
15　基本的運動の段階における指導・援助について
※なお、このシラバスの番号は内容を示したものであり、回数とは一致しない。

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など）
なし	定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
幼児と言葉		演習	外岡　先生
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　１単位	配当学年・時期 １学年　後期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕

保育士として必要な知識・技能として、「素話」について学習する。

単に知識として知っているというのではなく、実際に子どもたちの前で実演できるようにする。

〔授業全体の内容の概要〕

この授業では、保育士に求められる資質・能力として、子どもたちの前で「素話」を実演できるようにすることを目指す。そのために、学生自身が選択した「お話」を、まずは暗記して、人前で話せるように準備する。ただし、それは「素話」の前段階であり、その上で技術の習得を目指していく。

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕

３歳児を対象に３分間程度で素話をする想定で、次の７つのポイントをつかむことを目標とする。

①姿勢と目線（座って行う、立って行う）　②お話の始め方　③声の大きさ（自分の声の特徴をつかむ、ちょうどいい大きさの声を知る）　④表情の変化（笑顔、怖そうに、寂しそうに、表情に変化をつける、鏡をみて研究する）　⑤抑揚のつけ方・強弱・間のとり方（他の人の素話を研究）　⑥身振り手振り　⑦お話の終わり方（３分間程度で終わりにする）

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

コマ数

1　保育者として必要な知識・技能としての「素話」について
　　素話の実演を見てみよう。素話のオリジナルの台本づくりを始めよう。
2　お話「おむすびころりん」を覚えよう。(台本づくり①)
3　お話「ももたろう」を覚えよう。(台本づくり②)
4　お話「ありとはと」を覚えよう。(台本づくり③)
5　お話「ねずみのすもう」を覚えよう。(台本づくり④)
6　お話「てぶくろ」を覚えよう。(台本づくり⑤)
7　お話「３びきのこぶた」を覚えよう。(台本づくり⑥)
8　台本①～⑥のなかで、完全にマスターする台本を選ぼう。
9　お話の違う者同士のグループで、練習をしよう。①
10　お話の違う者同士のグループで、練習をしよう。②
11　指名された学生による素話の実演。素話のポイントは何かについて。
12　ビデオカメラでの撮影①
13　ビデオカメラでの撮影②
14　撮影した動画を見て、自分の姿を確認しよう。(振り返りをする。)
15　まとめ

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など）
授業中、資料を配布する。	定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B

	（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 人間関係（指導法）		授業の種類 演習	授業担当者 外岡　博之
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　１単位	配当学年・時期 １学年　後期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
人との関わりの発達
〔授業全体の内容の概要〕
人との関わりを育てる保育者として、子どもが自分らしくいきいきできる人間関係の場をどうつくっていくか学ぶ。

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
保育園では、子どもたち一人一人を生かした集団を形成しながら人と関わる力を育てていく。そのために子どもの行為の意味を考える力をつけることが目標である。そして、子どもが効力感を持てるような体験を促す援助方法を学ぶ。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
1　ガイダンス
2　領域「人間関係」について
3　人との関わりの発達
4　家族とのかかわり
5　家族外の人とのかかわり
6　かかわりの発達を育てるもの
7　ひととのかかわりを見る視点
8　共感　おもいやりを示すとき
9　社会的ルールの特質・イメージの共有
10　けんかの仲裁を考える
11　いざこざ
12　保育者の役割　園の中で
13　保育者の役割　地域の中で
14　多様な保育形態と遊び
15　自己表現の練習

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
河辺貴子「遊びを中心とした保育－保育記録から読み解く「援助」と「展開」萌文書林	（試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
幼児と環境		演習	久保田　先生
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　１単位	配当学年・時期 １学年　後期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
環境とかかわる力とは何か。より具体的な場面で検討していく。

〔授業全体の内容の概要〕
環境と関わる力をはぐくむ保育者として、子どもが生き生きとした活動をすることができるようにどのような場をつくっていくべきかを学ぶ。

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
幼稚園や保育園では、子どもたち一人一人が生き生きとした知的好奇心を持ちながら、環境にかかわる力がはぐくまれていくように保育を展開していく必要がある。どのようにして実現していくのかを、様々な事例を通して学んでいく。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
1　ガイダンス
2　領域「環境」について
3　事例①
4　事例②
5　事例③
6　グループワーク
7　グループワーク
8　グループワーク
9　発表
10　演習①
11　演習②
12　演習③
13　保育者の役割
14　多様な保育形態と遊び
15　まとめ

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など）
プリント他	定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 社会福祉		授業の種類 講義	授業担当者 太田　正
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　２単位	配当学年・時期 １学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
社会福祉の基礎的な理解

〔授業全体の内容の概要〕
少子高齢化といわれる現代社会において、「社会福祉」に対する国民の関心は高まっている。社会福祉は大きな転換期に指しかかっている。本講義では保育士に関わる児童分野に限定されることなく、社会福祉の幅広い領域について取り上げてみていくこととする。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕
現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。
社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。
社会福祉の動向と課題について理解する。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数
1　社会福祉のオリエンテーション
2　現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷　社会福祉の理念と概念
3　現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷　社会福祉の歴史的変遷
4　社会福祉と児童家庭福祉　社会福祉の一分野としての児童家庭福祉
5　社会福祉と児童家庭福祉　児童の人権擁護と社会福祉
6　社会福祉と児童家庭福祉　家庭支援と社会福祉
7　社会福祉の制度と実施体系　社会福祉の制度と法体系
8　社会福祉の制度と実施体系　社会福祉行財政と実施機関
9　社会福祉の制度と実施体系　社会福祉施設等、社会福祉の専門職・実施者
10　社会福祉の制度と実施体系　社会保障及び関連制度の概要
11　社会福祉における相談援助　相談援助の意義と原則
12　社会福祉における相談援助　相談援助の方法と技術
13　社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み　情報提供と第三者評価、利用者の権利擁護と苦情解決
14　社会福祉の動向と課題　少子高齢化への対応、在宅福祉・地域福祉の推進
15　社会福祉の動向と課題　保育・教育・療育・保健・医療等との連携とネットワーク、諸外国の動向

〔使用テキスト・参考文献〕 社会福祉養成講座編集委員会編「現代社会と福祉」中央法規出版	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 社会的養護Ⅰ		授業の種類 講義	授業担当者 秦　晴彦
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　２単位	配当学年・時期 １学年　後期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。
社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。
社会的養護の制度や実施体系等について
〔授業全体の内容の概要〕
社会的養護の現状と問題の背景を知る。
社会的養護の体系や児童福祉施設の役割を理解する。
居住型児童福祉施設における保育士の役割や援助方法について学ぶ。
〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
社会的養護の必要性を歴史的経緯をふまえて把握する。
社会福祉施設の種別と機能を知る。
居住型福祉施設で求められる保育士の一部を担えるようにする。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕　　コマ数
1　はじめに（講義を始めるにあたって)
2　社会的養護の必要な子ども
3　社会的養護の歴史①
4　社会的養護の歴史②
5　子どもの権利と法令
6　社会的養護のしくみ
7　施設養護の特質
8　施設養護の実際①児童養護系
9　施設養護の実際②障害系
10　施設養護の実際③治療・行動系
11　里親養育
12　社会的養護に関わる専門職・機関
13　社会的養護におけるソーシャルワーク
14　施設の運営管理と方向性
15　まとめ（課題発表）

〔使用テキスト・参考文献〕 大竹智、山田利子編「保育と社会的養護原理」（株）みらい	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

実務経験のある教員による授業	社会福祉士として、児童養護施設に勤務している。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
教育課程総論		講義	外岡　博之
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　２単位	配当学年・時期 １学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
教育内容の充実と質の向上に資する教育の計画と評価について理解する。
教育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。

〔授業全体の内容の概要〕
幼児教育の教育課程は生活を通して幼児を全人的に陶治しようとするものである。これを編成するための基本的・基礎的な理念とその具体的な方法を学ぶ。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）
教育内容の充実と質の向上に資する教育の計画と評価について説明できる。
教育課程の編成と指導計画の作成について具体的に説明できる。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数
1　はじめに（講義を始めるにあたって）
2　幼児期の意義について　人間の土台作りにあたる幼児期の発達において原体験・依存・自立・連帯、学習能力が大切である。
3　幼児教育のカリキュラムの立場　カリキュラムの４要素と教科カリキュラムと経験カリキュラムを学び、幼児教育のカリキュラムを学ぶ。
4　保育のあり方について　保育のあり方について、その子ども観、環境のとらえ方について学ぶ。
5　幼児教育課程の基本について　環境を通して行う教育について学びそれに続く３つの立場について学ぶ。
6　基礎となる幼児の姿　「遊び」とは何か、「楽しさ」とは何か、その背後にある子ども観について学ぶ。
7　教育目標について　５項目の目標と園における目標の意義をおさえる。
8　５領域とねらいと内容　生活カリキュラムにおけるスコープとシークエンスの関係にある５領域とねらい・内容について学ぶ。
9　カリキュラムと指導案　カリキュラムの編成と、指導案における「指導」の意味その意義、作成について学ぶ。
10　指導案の作成のポイント　環境の構成、幼児の活動、保育者の援助について学び、実際に指導案を作成する。
11　評価のポイント　指導案、環境構成、幼児の姿、保育者の援助、ディスカッションという５つの視点を学ぶ。
12　５領域について理解を深める　健康、人間関係、環境、言葉、表現の５領域について理解を求める。

13　5領域について理解を深める　健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域について理解を求める。 14　計画の展開と評価・反省 15　まとめ

〔使用テキスト・参考文献〕 教育六法（三省堂）	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90点以上)、A（80点以上）B（79～70点）C（69～60点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
教育方法論		講義	中野　良
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　２単位	配当学年・時期 １学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
幼児期の教育方法の歴史や実践例・その意義や特徴について知る。

〔授業全体の内容の概要〕
教科書を中心に進め、グループワークを通して理解を深める。

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
幼児期の教育方法について知り、理論的知識を獲得する。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数
1　オリエンテーション、個人理解ワーク
2　保育とは
3　環境とは
4　遊びとは
5　乳幼児期の教育方法　教育史
6　世界の教育法
7　学齢期の教育の違い
8　「評価」の観点と目的
9　体験の意義・経験的カリキュラム
10　さまざまな保育携帯
11　ITC 活用
12　アクティブラーニング
13　保育におけるカウンセリングマインド
14　同上
15　全体のまとめと質疑応答

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など）
『幼児教育の方法』(2015、北大路書房)	定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
教育概論		講義	外岡　博之
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　２単位	配当学年・時期 １学年　後期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
保育者とは何かを理解する。
〔授業全体の内容の概要〕
保育者としての倫理（人倫の道は）は、保育者の生き様を以って示すことが、保育・幼児教育段階では必要であることを理解する。(幼児教育を含む)
〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
保育とは何かを理解する。(幼児教育を含む)
保育者の意義と役割を理解する。(幼児教育を含む)
保育者としての資質・能力の基礎を確立する。(幼児教育を含む)
保育者になる意志を学生に持たせる。(幼児教育を含む)

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数
1　日本の保育者　①日本の保育者の歴史的特徴を理解する。②今日の保育者の役割を理解する。
2　保育者の資質①　①子ども志向の意味と内容を理解する。②保育者として身につけるべき専門知識の領域や内容を理解する。
3　保育者の資質②　①なぜ保育者にカウンセリングマインドが要求させるのか。②保育者のカウンセリングマインドの意味を理解する。
4　保育者の力量　①保育課程の構造を理解する。②保育者に求められる力量を、それぞれの領域ごとに、その違いを明確に理解する。
5　教育における懲戒①　①懲戒の意味を理解する。②懲戒と体罰の違いを理解する。③体罰の構造を理解する。
6　教育における懲戒②　①懲戒権の根拠を理解する。②体罰の内容を理解する。③体罰をめぐる裁判から、体罰と懲戒の境界を理解する。
7　教育観①　①聖職観の意味と登場の背景を理解する。②労働者観の意味と登場の背景を理解する。
8　教育観②　①専門職観の意味と登場の背景を理解する。②リーバーマンの専門職の分類を理解する。③リーバーマンの分類を手掛かりに教職が専門職に準じる意味を考える。
9　保育者と父母組織①　①PTA の歴史を理解する。②PTA に対する批判とその背景を理解する。③PTA の組織的な性格を理解する。
10　保育者と父母組織②　①PTA の原理を理解する。
11　教師の児童への安全配慮義務①　①幼稚園、保育園で起こる事故の特徴を、データや事故が生じる背景を理解する。②幼稚園教諭の安全管理の内容を理解する。
12　学校の情報公開①　①開かれた学校の意味を理解する。
13　学校の情報公開②　①学校が持っている情報の種類を理解する。②学校における情報公開の意義と弊害を理解する。

14　教師と教育行政①　①教育行政の歴史を理解する。②教育行政の原則とその変化を理解する。 15　教師と教育行政②　①教育行政をめぐる論争、裁判の論点を理解する。 ②職員会議の役割をめぐる論争を理解する。 ③勤務評定の意義と問題点を理解する。	
〔使用テキスト・参考文献〕 プリント	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

<table>
<tr><td colspan="2">授業のタイトル（科目名）

教育実習事前事後指導</td><td>授業の種類

講義</td><td>授業担当者

飯塚　京子　先生</td></tr>
<tr><td>授業の回数
１５回</td><td>時間数（単位数）
３０時間　２単位</td><td>配当学年・時期
１学年　後期</td><td>必修・選択
必修</td></tr>
<tr><td colspan="4">〔授業の目的・ねらい〕
幼稚園の生活を知り、実習に対する保育者の姿勢、実践現場への配慮について知る。
保育者への期待を持ち、よりよい保育者になるよう資質の向上を図る。
〔授業全体の内容の概要〕
教育実習（幼稚園実習）に必要な知識と技術について、講義と演習で学ぶ。
〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕
教育実習についての理解を深め、実習に取り組むことができる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数
1　園生活を知り実習への期待を持つ。
2　教育実習への心構え
3　教育実習への準備
4　絵本・紙芝居の読み方
5　ペープサート
6　実習計画を立てる
7　リズムの変化に気づき楽しんで体を動かす
8　「てぶくろ」をグループで演じる
9　発表
１０　まとめ</td></tr>
<tr><td colspan="2">〔使用テキスト・参考文献〕
プリント</td><td colspan="2">〔単位認定の方法及び基準〕
（試験やレポートの評価基準など）
定期試験を実施し、SA（90 点以上）、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">実務経験のある教員による授業</td><td colspan="2">保育園と幼稚園の園長として仕事をしている。</td></tr>
</table>

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 教育実習事前事後指導		授業の種類 講義	授業担当者 飯塚　京子　先生
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　２単位	配当学年・時期 １学年　後期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
幼稚園の生活を知り、実習に対する保育者の姿勢、実践現場への配慮について知る。
保育者への期待を持ち、よりよい保育者になるよう資質の向上を図る。

〔授業全体の内容の概要〕
教育実習（幼稚園実習）に必要な知識と技術について、講義と演習で学ぶ。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕
教育実習についての理解を深め、実習に取り組むことができる。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数

1　園生活を知り実習への期待を持つ。
2　教育実習への心構え
3　教育実習への準備
4　絵本・紙芝居の読み
5　ペープサート
6　実習計画を立てる
7　リズムの変化に気づき楽しんで体を動かす
8　「てぶくろ」をグループで演じる
9　発表
１０　まとめ

〔使用テキスト・参考文献〕 プリント	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上）、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。
実務経験のある教員による授業	保育園と幼稚園の園長として仕事をしている。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 劇あそび（指導法）		授業の種類 演習	授業担当者 佐々木　優子
授業の回数 １０回	時間数（単位数） １５時間　１単位	配当学年・時期 １学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
動きを伴った歌唱の体験により、自由に表現できる身体を目指す。
さまざまな形の劇表現に触れ、幼児の劇あそび指導・援助への方法を探る。
〔授業全体の内容の概要〕
ふだんの指導の中で、以下の内容を扱っているので、それを生かした劇づくりとなる。
①基本ステップ、リトミック、リズムダンス、模倣表現　②わらべ歌あそび　③自由表現（自然現象、生活事象、抽象事象）④発表・鑑賞　以上の動きのリズムを中心とした活動を展開します。
〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
どのように指導・援助を組みたてていくかなど常に考える。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
1　ガイダンス

2　歌遊び

3　歌の世界を演じる

4　ドラムジカ

5　ドラムジカ

6　ドラムジカ

7　ドラムジカ

8　劇

9　劇

１０　まとめ

〔使用テキスト・参考文献〕 なし	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 保育内容総論		授業の種類 演習	授業担当者 加藤　吉和
授業の回数 １０回	時間数（単位数） １５時間　１単位	配当学年・時期 １学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
保育所保育指針における保育内容を理解するともに保育の全体的な構造を理解する。
〔授業全体の内容の概要〕
保育内容を子どもに関わる事柄・営みと幅広くとらえ、５領域の考え方、子ども理解の視点、保育者の役割、指導計画作成の基本などを学びます。また、実際の保育場面を想定し、保育士等の振舞い方なども検討します。また、子どもが生活や遊びを通して育つことを実感するために、具体的な遊びや活動などをグループなどで行うこともあります。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕
保育所保育指針における「保育の目標」、「子どもの発達」、「保育の内容」を関連付けて保育内容を理解するとともに、保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を説明できる。
保育内容の歴史的変遷について学び、保育内容について説明できる。
子どもや子ども集団の発達の特性や発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を習得し、保育内容と子ども理解とのかかわりについて説明できる。
子どもの生活全体を通して、養護（生命の保持、情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）が一体的に展開することを具体的な保育実践につなげて説明できる。
保育の多様な展開について具体的に検討できる。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法
1　保育内容の基本
2　保育所保育指針における「保育の内容」（１）
3　保育所保育指針における「保育の内容」（２）
4　子どもの発達と保育内容（１）
5　子どもの発達と保育内容（２）
6　子どもの活動と保育内容の具体例（１）
7　子どもの活動と保育内容の具体例（２）
8　子どもの活動と保育内容の具体例（３）
9　保育内容と指導計画（１）
10　保育内容と指導計画（２）
11　保育内容と指導計画（３）
12　保育内容の歴史的変遷
13　保育内容の今日的課題（１）
14　保育内容の今日的課題（２）
15　まとめ（重要事項の確認）

※なお、このシラバスの番号は内容を示したもので、回数とは一致しない。

〔使用テキスト・参考文献〕 河辺貴子　遊びを中心とした保育－保育記録から読み解く「援助」と「展開」萌文書林	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 子どもの保健		授業の種類 講義	授業担当者 伊藤　舞美
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　２単位	配当学年・時期 ２学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
小児の成長・発達の特性を理解する。
小児の身体的な特性を理解する。
〔授業全体の内容の概要〕
個々の子どもに合った心身の発達を援助するために必要な小児の特性について学ぶ。
〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕
標準的な子どもの成長発達の特徴を説明することができる。
標準的な子どもの身体的な特性を説明することができる。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数
1　小児の健康の定義と健康に影響する要因
2　地域における保健活動と児童虐待防止
3　生理機能の発達と保健
4　精神運動機能発達と保健
5　食中毒とその予防
6　発育・発達の実際
7　発育・発達を促す保育の実際
8　小児各時期の健康づくりの意義
9　運動発達、精神発達
１０　乳幼児の栄養と食事
１１　体温、その調節方法
１２　水分補給、排泄
１３　睡眠、外気浴、日光浴、外出
１４　身体の清潔、遊び
１５　まとめ

〔使用テキスト・参考文献〕 「新　保育士養成講座　第７巻子どもの保健」全国社会福祉協議会出版会	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。
実務経験のある教員による授業	看護師として、病院に勤務している。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 子育て支援		授業の種類 演習	授業担当者 北田　広美
授業の回数 １０回	時間数（単位数） １５時間　１単位	配当学年・時期 ２学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目標〕

1．保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等、保育相談支援について、その特性と展開を具体的に理解する。

2．保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。

〔内容の概要〕

1．保育士の行う子育て支援の特性

2．保育士の行う子育て支援の展開

3．保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術）

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

コマ数

1　子どもの保育とともに行う保護者の支援

2　日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成

3　保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解

4　子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供

5　子ども及び保護者の状況・状態の把握

6　支援の計画と環境の構成

7　支援の実践・記録・評価・カンファレンス

8　職員間の連携・協働

9　社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働

10　保育所等における支援

11　地域の子育て家庭における支援

12　障害のある子ども及びその家庭に対する支援

13　特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援

14　子どもの虐待防止の予防と対応、要保護児童等の家庭に対する支援

15　多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解

※なお、このシラバスの番号は内容を示したもので、回数とは一致しない。

〔使用テキスト・参考文献〕 プリント	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。
実務経験のある教員による授業	園長として、保育園に勤務している。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 子ども家庭福祉		授業の種類 講義	授業担当者 野村　明洋
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　２単位	配当学年・時期 ２学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
現代の児童家庭福祉をめぐる現状と課題の理解
〔授業全体の内容の概要〕
児童家庭福祉の生活実態、社会情勢、福祉需要について統計等を用いて学ぶ。
児童の権利について理解をするとともに、事例を用いながら、児童家庭福祉制度の概要について学ぶ。
児童福祉法、児童虐待防止法を始めとする児童家庭福祉に係る法制度について学ぶ。
〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
児童家庭の生活実態とそれを取り巻く社会情勢、福祉需要について理解する。
児童の権利について理解する。
児童家庭福祉制度の概要について理解する。
児童家庭福祉に係る他の法制度について理解する。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数
1　はじめに、講義を始めるにあたって講義の進め方と講義の対象・課題
2　今日の児童家庭福祉の現状、児童家庭福祉の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際
3　児童とは　児童の定義と権利
4　児童福祉関連法規①　児童福祉法
5　児童福祉関連法規②　児童虐待の防止等に関する法律
6　児童福祉関連法規③　配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律
7　児童福祉関連法規④　母子及び寡婦福祉法
8　児童福祉関連法規⑤　母子保健法・売春防止法
9　児童福祉関連法規⑥　児童手当法・児童扶養手当法・特別児童扶養手当等支給に関する法律
10　児童福祉関連法規⑦　次世代育成対策推進法・少子社会対策基本法
11　児童家庭福祉制度について①　児童家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際
12　児童家庭福祉制度について②　児童家庭福祉制度における多職種連携・ネットワーキングと実際
13　児童相談所について①　児童相談所の役割と実際①
14　児童相談所について②　児童相談所の役割と実際②
15　まとめ　重要事項の確認

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
社会福祉養成講座編集委員会編「児童と家庭に対する支援と児童家庭福祉制度－児童家庭福祉論」中央法規出版	（試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。
実務経験のある教員による授業	園長として、保育園に勤務している。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
保育原理		講義	野村　明洋
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　２単位	配当学年・時期 ２学年　後期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕

保育原理は保育士養成課程の必修科目であり、保育の本質及び目的の理解をするために設けられています。保育を学ぶ学生にとって保育の基本を学ぶ最初の入り口となる重要な科目です。ヒトの子として生まれた子供が人間の子として育つために必要な保育とはどのようなものか。乳幼児期の子どもたちが幸せな現在を生き、望ましい未来をつくっていくために保育者に求められる保育観、基礎知識とは何か。これが保育原理の授業のテーマです。

〔授業全体の内容の概要〕

保育の意義について理解する。
保育所保育指針における保育の基本について理解する。
保育の内容と方法の基本について理解する。
保育の思想について理解する。
保育の現状と課題について考察する。

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕

この授業では以下のことを学びの目標としています。
①保育者という職業の素晴らしさに気づく。
②日々の保育を支える保育観を学ぶ。
③保育者に必要な基礎知識を学ぶ。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

コマ数
1　保育原理のオリエンテーション
2　保育とは　保育の意義　保育の目的・目標
3　保育原理の研究
4　育児支援　少子高齢化社会
5　育児支援　少子高齢化社会に生きる親と子ども
6　育児支援　共に育ち、共に育てる　家庭、地域、幼稚園・保育所
7　保育の考え方　保育所保育指針、幼稚園教育要領の考え方
8　保育の考え方　遊び、生活、保育の環境、生きる力を育む保育の考え方
9　保育者の仕事　保育の計画と実践
10　保育者の仕事　保育の記録、評価
11　保育者の仕事　保育形態
12　乳幼児の発達と保育
13　保育制度の歩みと現状

14　これからの保育を考える　保育者に求められるもの 15　これからの保育を考える　どのような保育者になるか

〔使用テキスト・参考文献〕 森下史郎、小林紀子、若月芳浩編 保育原理３版（最新保育講座）ミネルヴァ書房	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 子ども家庭支援論		授業の種類 講義	授業担当者 河野　暢明
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　２単位	配当学年・時期 ２学年　後期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
家族の意義とその機能について理解する。
子育て家族を取り巻く社会的状況等について理解する。
子育て家族の支援体制について理解する。
子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。

〔授業全体の内容の概要〕
「子育て支援」は子ども・親を含めた家族が対象であることを学ぶ
保育所やその他の児童福祉施設での「子育て支援」の役割を理解する。
家族を取り巻く社会環境をふまえての援助活動の方法を考える。

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
国の子育て支援策の変遷と現在の支援内容を把握する。
子育て支援を行う際の保育所や児童福祉施設等での保育士の役割を知る。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数
1　はじめに（講義を始めるにあたって）
2　家族の定義と機能①
3　家族の定義と機能②
4　家族の小規模化と少子化
5　社会環境の変化
6　家族関係の変化
7　子育ての「困難」
8　家族の福祉を図るための社会資源
9　保育所における子育て支援
10　援助者の役割
11　ひとり親への子育て支援
12　特別なニーズへの対応
13　世界の子育て支援
14　各自治体の取り組み
15　まとめ（重要事項の確認）

〔使用テキスト・参考文献〕 プリント	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。
実務経験のある教員による授業	臨床心理士・障がい者施設に勤務している。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
保育の心理学		講義	福本　敏宏
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ２単位	配当学年・時期 ２学年　後期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
保育の心理学の知識を習得する。
子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。
子どもが人との相互的かかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。

〔授業全体の内容の概要〕
この講義では、保育に関連した心理学について学びます。子どもが成長とともにどのように変化していくのか（発達）様々な事柄をどのように学んでいくのか（学習）を概観し保育の実践場面で有用となる心理学的支援について解説します。

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
保育に関わる心理学の基礎（子どもの発達と学習）について説明できる。
保育場面における心理学的な支援方法について説明できる。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数
1　はじめに（講義を始めるにあたって）
2　講義の進め方と講義の対象・課題
3　保育と心理学
4　子どもの発達１　発達と環境
5　子どもの発達２　感覚と運動
6　子どもの発達３　ことばと認知
7　子どもの発達４　他者との関わり
8　子どもの学び１　環境との相互作用
9　子どもの学び２　学習の基礎
10　子どもの学び３　ことばと行動
11　子どもの学び４　社会的な学習
12　子どもの問題と支援１　問題行動と発達障害
13　子どもの問題と支援２　問題の把握と対応
14　子どもの問題と支援３　実践と評価
15　まとめ　重要事項の確認

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など）
プリント	定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。
実務経験のある教員による授業	スクールカウンセラーとして、中・高等学校に勤務していた。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
子ども家庭支援の心理学		講義	河野 暢明
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ２単位	配当学年・時期 ２学年　後期	必修・選択 必修

〔授業の目標〕

1．生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。
2．家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
3．子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。
4．子どもの精神保健とその課題について理解する。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

コマ数

1　はじめに（講義を始めるにあたって）
2　講義の進め方と講義の対象・課題
3　生涯発達（１）乳幼児期から学童期前期にかけての発達
4　生涯発達（２）学童期後期から青年期にかけての発達
5　生涯発達（３）成人期・老年期における発達
6　家族・家庭の理解（１）家族・家庭の意義と機能
7　家族・家庭の理解（２）親子関係・家族関係の理解
8　家族・家庭の理解（３）子育ての経験と親としての育ち
9　子育て家庭に関する現状と課題（１）子育てを取り巻く社会的状況
10　子育て家庭に関する現状と課題（２）ライフコースと仕事・子育て
11　子育て家庭に関する現状と課題（３）多様な家庭とその理解
12　子育て家庭に関する現状と課題（４）特別な配慮を要する家庭
13　子どもの精神保健とその課題（１）子どもの生活・生育環境とその影響
14　子どもの精神保健とその課題（２）子どもの心の健康に関わる問題
15　まとめ　重要事項の確認

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など）
プリント	定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。
実務経験のある教員による授業	スクールカウンセラーとして、中・高等学校に勤務していた。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 教育相談		授業の種類 講義	授業担当者 福本　敏宏
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ２単位	配当学年・時期 ２学年　後期	必修・選択 必修

〔授業の目標〕

１．幼児理解の意義・方法について理解し、幼児理解と発達・学びとの関連性を理解する。

２．幼児を個と集団の視点から理解する。

３．カウンセリングマインドの必要性を理解し、カウンセリングの基礎的な態度・技法を理解する。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

コマ数

1　はじめに（講義を始めるにあたって）
2　講義の進め方と講義の対象・課題
3　幼児の発達と学び
4　個と集団の視点
5　幼児教育における教育相談の意義
6　教育相談にかかわる心理学的な基礎的な理論・概念
7　カウンセリングマインド
8　カウンセリングの基礎的な技法・態度
9　幼児の不適応や問題行動の意味
10　幼児の発するシグナル
11　保護者への子育て支援１
12　保護者への子育て支援２
13　教育相談をすすめるための組織整備
14　多職種との連携
15　まとめ　重要事項の確認

〔使用テキスト・参考文献〕 プリント	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。
実務経験のある教員による授業	スクールカウンセラーとして、中・高等学校に勤務していた。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 幼児への特別な支援		授業の種類 演習	授業担当者 野村　明洋
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　１単位	配当学年・時期 ２学年　後期	必修・選択 必修

〔授業の目標〕

1

特別の支援を必要とする幼児の理解、幼児の障害の特性及び心身の発達を理解する。

2.

特別の支援を必要とする幼児の教育課程及び支援の方法について理解する。

3.

障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児の把握や支援について理解する。

コマ数

1　オリエンテーション

2　1）インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する理念や仕組み

3　2）発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児の発達

4　3）視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害がある幼児の発達

5　1）特別の支援を必要とする幼児の教育課程と支援の方法

6　2)「通級による指導」及び「自立活動」

7　3）個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法

8　4）特別支援教育コーディネーター、関係機関、家庭との連携

9　1）母国語の問題、外国人の家庭の幼児への支援

１０　2）母国語の問題、外国人の家庭の幼児への支援、外国人障害児への取り組む

１１　3）貧困家庭の幼児への支援

１２　4）貧困家庭の幼児への支援、こども食堂の取り組み

１３　5）ＬＧＢＴの問題

１４　6）ＬＧＢＴの問題、幼児や家庭への支援

１５　まとめ

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
尾崎康子他（編）よくわかる障害児保育 ミネルヴァ書房 永江誠司（著）子どもの脳を育てる教育 河出書房新社	（試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。
実務経験のある教員による授業	園長として、保育園に勤務している。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 障害児保育		授業の種類 演習	授業担当者 野村　明洋
授業の回数 １０回	時間数（単位数） １５時間　１単位	配当学年・時期 ２学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕子どもの発達の原理を理解する。子どもの脳のしくみと発達およびその障害について理解する。
障害種ごとの症状、原因、心理、保育の留意点について理解する。
〔授業全体の内容の概要〕すべての子どもは、その発達を保証されなければならない。そのことは、障害や発達の遅れのある子どもにおいては特に配慮する必要がある。この視点に立って、障害児保育の授業ではまず子どもの心身の発達について及び脳の発達について理解を深める。
〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕子どもの感覚的、身体運動的、知的、情緒的、対人関係的障害等についての理解を深めていく。そして障害児の発達的変化を促す保育的援助について知る。
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

１　オリエンテーション
２　発達と障害
３　脳のしくみと発達
４　視覚障害と保育
５　聴覚障害と保育
６　ことばの障害と保育
７　身体・運動機能障害と保育
８　知能障害と保育
９　学習障害と保育
１０　注意欠陥多動性障害と保育
１１　情緒・対人関係障害と保育
１２　障害児のアセスメント①
１３　障害児保育の仕組み
１４　自閉症の特徴と保育での支援
１５　その他障害の特徴と保育での支援
※なお、このシラバスの番号は内容を示したもので、回数とは一致しない。

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など）
尾崎康子他（編）よくわかる障害児保育 ミネルヴァ書房 永江誠司（著）子どもの脳を育てる教育 河出書房新社	定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。
実務経験のある教員による授業	園長として、保育園に勤務している。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
子どもの食と栄養		演習	神田　由佳
授業の回数 １５回、１０回	時間数（単位数） ４５時間　２単位	配当学年・時期 ２学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕子どもの心身の健全な発育・発達のためには、また子どもが健康的な生活を営むためには、適切な栄養の摂取が非常に重要である。

〔授業全体の内容の概要〕食習慣はさまざまな生活習慣の中でも早期に形成されると言われており、また大人になってから変えることは難しいとも言われている。したがって、子どもの頃によい食習慣を身につけることは、生涯にわたって健康に寄与すると考えられる。本講義では、まず栄養に関する基本的知識を習得し、さらに子どもの各発達段階における食生活のありかたについて解説を行う。

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕現代の子どもにおける食生活上の問題点について分かる。健康的な生活を営むための、基本的な栄養の知識が修得できる。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

コマ数

1　はじめに（講義を始めるにあたってのガイダンス）
2　日本人の健康と食生活　現代日本人の健康と食生活の問題点について
3　子どもの食生活とその問題点　現代の子どもたちにおける健康と食生活の問題点について
4　子どもの健康的な食生活とはとは　子どもの健康な生活と食生活の意義
5　栄養と栄養素　栄養、栄養素とは何か、その役割
6　食欲のしくみ、消化と吸収　食欲が起こるメカニズム、消化、吸収のメカニズムについて
7　エネルギー代謝　エネルギーの摂取と消費について
8　糖質の栄養①　糖質の特徴とその役割について
9　糖質の栄養②　糖質の特徴とその役割について
10　脂質の栄養　脂質の特徴とその役割について
11　タンパク質の栄養①　タンパク質の特徴とその役割について
12　タンパク質の栄養②　タンパク質の特徴とその役割について
13　ミネラルの栄養　ミネラルの特徴とその役割について
14　ビタミンの栄養　ビタミンの特徴とその役割について
15　まとめ　重要事項の確認

16　はじめに（講義を始めるにあたってのガイダンス）
17　子どもの発育と発達　子どもの発育・発達と食生活について
18　妊娠期、胎児期の食生活　妊娠期、胎児期の食生活について
19　乳児期の食生活①　乳児期の食生活の特徴について
20　乳児期の食生活②　乳児期の食生活の特徴について
21　乳児期の食生活③　乳児期の食生活の特徴について
22　幼児期の食生活①　幼児期の食生活の特徴について

23　幼児期の食生活②　幼児期の食生活の特徴について 24　幼児期の食生活③　幼児期の食生活の特徴について 25　学童期・思春期の食生活　学童期・思春期の食生活の特徴について	
〔使用テキスト・参考文献〕 新保育ライブラリ　子どもの食と栄養 （北大路書房）	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 社会的養護Ⅱ		授業の種類 演習	授業担当者 佐々木　玄
授業の回数 １０回	時間数（単位数） １５時間　１単位	配当学年・時期 ２学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
特に障害や虐待により人との信頼関係構築が難しい児童を支援するための知識や技能を習得させるとともに施設養護観の形成を目指す。
〔授業全体の内容の概要〕
家庭的養護と施設の小規模化、ソーシャル・インクルージョン（社会的包括）の拡がりの中で居住型の児童福祉施設における養護の理解を深める。
〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕
社会的養護の原理と原則を踏まえて、以下の３点に重点を置く。
１．社会的養護施設の機能と役割を説明できる。
２．自立支援計画や養護の理解と簡単な作成を行える。
３．事例を通して、施設保育者の役割と意義を学び、自ら意見を述べることができる。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕コマ数
1　児童の権利擁護　児童の最善の利益について考える。
2　児童の権利擁護　児童の最善の利益について考える。
3　里親制度の特性と養育の実際
4　里親制度の特性と養育の実際
5　乳児院・児童養護施設・ファミリーホームの養育をめぐる状況と支援の実際
6　乳児院・児童養護施設・ファミリーホームの養育をめぐる状況と支援の実際
7　ひとり親家庭、母子生活支援施設と支援の実際
8　ひとり親家庭、母子生活支援施設と支援の実際
9　情緒障害のある子どものための施設と支援の実際
10　情緒障害のある子どものための施設と支援の実際
11　障害児施設（入所・通所）の療育と支援の実際
12　自立支援計画　子どもへの支援における記録について
13　里親・ファミリーホームと専門機関とのつながり
14　虐待された子どもへの支援
15　施設と家族と関わりと地域との連携
※なお、このシラバスの番号は内容を示したもので、回数とは一致しない。

〔使用テキスト・参考文献〕 児童の福祉を支える（演習）社会的養護内容　吉田真理著　萌文書林	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。
実務経験のある教員による授業	児童指導員任用資格。児童養護施設に勤務している。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 言語表現		授業の種類 演習	授業担当者 外岡 博之
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　１単位	配当学年・時期 ２学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
保育者として乳幼児期の言語表現を豊かにするための支援に関する基礎的知識及び必要な技術を身につけ、実際に活用できるようにする。

〔授業全体の内容の概要〕
乳幼児期の言語発達とその特徴、乳幼児期の言語発達過程、乳幼児期の言語発達の特徴

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
乳幼児期の言語発達の特徴に関する知識を習得し、子どもの遊びを豊かに展開するための保育実践に活用できる。
言語表現活動に係わる教材（特に紙芝居等）等の活作成を通して、乳幼児の言語表現を豊かにするための環境構成技術を習得し、保育実践に活用できる。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
1　はじめに（講義を始めるにあたって）
2　乳幼児期の言語発達過程とその特徴①
3　乳幼児期の言語発達過程とその特徴②
4　言語表現と絵本
5　児童文化財としての絵本
6　児童文化財としての紙芝居
7　保育と絵本、紙芝居
8　紙芝居特性を生かした絵本製作の為のグループミーティング
9　紙芝居特性の理解
10　絵本製作の為のディスカッション
11　紙芝居特性を生かした絵本製作活動①
12　紙芝居特性を生かした絵本製作活動②
13　紙芝居特性を生かした絵本製作活動③
14　保育における絵本読み聞かせ指導
15　まとめ
※なお、このシラバスの番号は内容を示したものであり、回数とは一致しない。

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など）
講師の作成資料	定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
教育実習		実習	飯塚 京子
授業の回数 ２０日間	時間数（単位数） １６０時間４単位	配当学年・時期 ２学年　前期　３学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
幼児教育について理解を深め、自分なりの保育観や子ども観を確立する。

〔授業全体の内容の概要〕
「教育実習」は、本校では幼稚園教諭の免許を取得するために幼稚園で行う。合計２０日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ。①幼稚園における１日の流れ　②子どもへの理解を深める　③幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について学ぶ　④幼稚園教育における技術や記録方法について実践的に学ぶ　⑤幼稚園教諭を志すものとして自覚を高める

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
保育現場で幼児教育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、幼児教育の実践と具体的にどのように繋がるか理解することができる。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
教育実習の「幼稚園実習」では以下の観点から幼稚園における幼児教育がどのようになされているかを理解する。
１．幼稚園の内容、機能について理解する。(幼稚園の１日の流れやプログラムの理解など)
２．幼稚園における子どもの理解。(年齢ごとの子どもの発達とその特徴など)
３．幼稚園における幼稚園教諭の職務内容、役割などを理解する。
４．日誌や指導案の書き方を学ぶ
担当者の指導や助言に従い、積極的に教育実習に参加すること。

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など）
「幼稚園、保育所、児童福祉施設実習ガイド」石橋裕子他　同文書院	実習の評価方法は、実習園の評価に加え、実習日誌や事後レポートなどの提出物などの総合的な評価によってＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅの５段階評価としＥを不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 保育・教職実践演習		授業の種類 演習	授業担当者 田中 君枝
授業の回数 ３０回	時間数（単位数） ６０時間　２単位	配当学年・時期 ３学年　前期・後期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
保育士として必要な知識・技能の中で、自己に欠けている課題を把握する。
保育者として必要なコミュニケーション能力の向上に積極的に取り組む。

〔授業全体の内容の概要〕
この授業では、これまでの学習と実習の成果を振り返りながら、保育士に求められる資質と能力の習得を確認する。従って学生自身が必要に応じて自己の資質と能力の向上に努めることができるよう、発表・議論・ロールプレイ、模擬保育などを組み合わせ行う。

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
自らの学びを振り返り保育士として必要な知識・技能の習得を確認する。
保育士として必要なコミュニケーション能力を習得する。
保育士としての使命感と職務内容について理解する。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕コマ数
１・２　保育者としての自己分析
３・４　保育者としての社会的使命と役割
５・６　保育者としての教育的愛情
７・８　保育職の意義と職務内容
９・１０　家庭・地域社会との連携
１１・１２　子ども・保護者との信頼関係の構築
１３・１４　保育者に必要なコミュ二ケーション能力：ロールプレイ（保護者への対応）
１５・１６　実習課題への取り組み
１７・１８　保育所実習の振り返り
１９・２０　事例研究の方法と進め方
２１・２２　事例研究の準備１
２３・２４　事例研究・グループ討議
２５・２６　実習報告会の準備
２７・２８　実習報告会
２９・３０　まとめ

〔使用テキスト・参考文献〕 授業中、資料を配布する。	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。
実務経験のある教員による授業	幼稚園教諭として、幼稚園に勤務していた。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 保育実習事前事後指導Ⅰ（保育所）		授業の種類 演習	授業担当者 久保田　ひろ子
授業の回数 １０回	時間数（単位数） １５時間　１単位	配当学年・時期 ２学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
保育実習の意義、目的を理解する。

〔授業全体の内容の概要〕
保育実習の意義、目的を理解した上で実習の内容を理解し、学生自らの課題を明確にするよう指導する。実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について説明する。実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に書けるように指導する。
実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にするために実習の事後指導をする。

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
保育実習の意義、目的を説明できる。
実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。
実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について説明できる。実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に説明できる。
実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確に記述する。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数
1　保育実習の基本の確認
2　実習施設を知る（1）
3　実習施設を知る（2）
4　実習計画をたてる（1）
5　実習計画をたてる（2）
6　記録の方法・内容について学ぶ
7　見学及び体験を通して保育所の機能を学ぶ
8　保育所における1日の保育の流れを学ぶ
9　保育所における子どもの生活と活動について学ぶ
10　学内オリエンテーション
11　実習の振り返り（1）
12　実習の振り返り（2）
13　実習の振り返り（3）
14　これからの課題について
15　まとめ
※なお、このシラバスの番号は内容を示したものであり、回数とは一致しない。

〔使用テキスト・参考文献〕 「新訂　幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド」石橋裕子他　同文書院	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 実習の評価方法は、実習園の評価に加え、実習日誌や事後レポートなどの提出物などの総合的な評価によって、A・B・C・D・Eの5段階評価としEを不合格とする。
実務経験のある教員による授業	園長として、保育園に勤務している。

授　業　概　要

<table>
<tr><td colspan="2">授業のタイトル（科目名）

保育実習Ⅰ（保育所）</td><td>授業の種類

実習</td><td>授業担当者

飯塚 京子</td></tr>
<tr><td>授業の回数
１２日間</td><td>時間数（単位数）
８０時間　２単位</td><td>配当学年・時期
２学年　後期</td><td>必修・選択
必修</td></tr>
<tr><td colspan="4">〔授業の目的・ねらい〕
自分なりの保育観や子ども観を深め確立する。

〔授業全体の内容の概要〕
「保育実習」は保育士資格を取得するために児童福祉施設で行う実習である。１２日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ。①保育所における１日の流れ　②子どもへの理解を深める　③保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ　④保育所の技術や記録方法について実践的に学ぶ　⑤保育士を志すものとして自覚を高める

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
保育現場で保育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるか理解することができる。　実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
保育実習Ⅰの「保育所実習」では以下の観点から保育所における保育がどのようになされているかを理解する。
１．保育所の内容、機能について理解する。(保育所の１日の流れやプログラムの理解など)
２．保育所における子どもの理解。(年齢〈月齢〉ごとの子どもの発達とその特徴など)
３．保育所における保育者の職務内容、役割などを理解する。
４．日誌や指導案の書き方を学ぶ
担当保育の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加すること。</td></tr>
<tr><td colspan="2">〔使用テキスト・参考文献〕
「幼稚園、保育所、児童福祉施設実習ガイド」石橋裕子他　同文書院</td><td colspan="2">〔単位認定の方法及び基準〕
（試験やレポートの評価基準など）
実習の評価方法は、実習園の評価に加え、実習日誌や事後レポートなどの提出物などの総合的な評価によってＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅの５段階評価としＥを不合格とする。</td></tr>
</table>

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
保育実習事前事後指導Ⅰ（施設）		演習	久保田　ひろ子
授業の回数 １０回	時間数（単位数） １５時間　１単位	配当学年・時期 ２学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
児童福祉施設の機能を知る。

〔授業全体の内容の概要〕
児童福祉施設の機能や支援内容を現場での体験を通して理解する。
既習の教科全体の知識・技能を基礎にし実践力を養う。
社会福祉施設における保育士の業務内容を知り、一部を担えるようにする。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕
児童福祉施設の機能を知る。
施設で働く専門職種とその役割を把握する。
社会福祉施設における保育士の業務内容を知り、一部を担えるようにする。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数
1　保育実習Ⅰ（施設）の意義
2　実習施設の機能（児童養護施設）
3　実習施設の機能（障害児施設）
4　自立施設の機能（乳児院・児童自立支援施設）
5　実習計画書の作成、実習目標と実習計画
6　実習記録の意義、書き方、実習生としてのマナー
7　実習先で求められる技術①
8　実習先で求められる技術②
9　実習における留意点①
10　実習における留意点②
11　実習における留意点③
12　振り返り（１）－実習を終えた学生を中心にー
13　振り返り（２）－実習を終えた学生を中心にー
14　振り返り（３）
15　まとめ
※なお、このシラバスの番号は内容を示したものであり、回数とは一致しない。

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
「幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド」石橋裕子他　同文書院	（試験やレポートの評価基準など） 実習の評価方法は、実習園の評価に加え、実習日誌や事後レポートなどの提出物などの総合的な評価によって、A・

	B・C・D・E の 5 段階評価とし E を不合格とする。
実務経験のある教員による授業	園長として、保育園に勤務している。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 幼児体育Ⅱ		授業の種類 演習	授業担当者 今井　修
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　１単位	配当学年・時期 ３学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
幼児期にどのような活動が必要で効果的なのかを、幼児の心身の発達を踏まえて援助する

〔授業全体の内容の概要〕
幼児体育をどうとらえるか。

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
幼児期にどのような活動が必要で効果的なのかを理解する。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数
1　オリエンテーション
2　基礎理論　幼児体育をどうとらえるか
3　実技　マットあそびの要点と目的
4　実技　ドッチボール
5　基礎理論　運動あそびの必要性と目的
6　実技　ボールあそびの要点
7　実技　バレーボール
8　基礎理論　運動能力の特徴　平衡性・柔軟性・筋力
9　基礎理論　運動能力の特徴　平衡性・柔軟性・筋力
10　実技　学生による指導
11　基礎理論　運動能力の特徴　持久力・瞬発力、敏捷性、巧緻性
12　実技　学生による指導
13　基礎理論　年齢による発達（縄）
14　実技　学生による指導
15　基礎理論　年齢による発達（固定遊具）

〔使用テキスト・参考文献〕 プリント	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。
実務経験のある教員による授業	体育教諭として、高等学校に勤務していた。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 乳児保育Ⅰ		授業の種類 講義	授業担当者 中野 良子
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　２単位	配当学年・時期 ３学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕乳児保育の理念と歴史的変遷及び役割、保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題

〔授業全体の内容の概要〕乳児（２歳児までの子ども）がどのように育つのか、大人を含めた周囲の環境のありようも含めて学ぶ。また、乳児の歴史をふまえつつ、保育所での生活の仕方、その時の保育者の配慮などについても学ぶ。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕

乳児保育の理念と歴史的変遷及び役割等について説明できる。

保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題について説明できる。

乳児保育における保護者や関係機関との連携について説明できる。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

１　講義の進め方と講義の対象・課題、本演習で対象とする「乳児」とは

２　おおむね３歳までの子どもの発達

３　おおむね３歳までの子どもの発達

４　育児文化・乳児保育の変遷

５　乳児が育つ場としての保育園

６　乳児が主体的に生活すること

７　乳児の生活・授乳・食事

８　乳児の生活・睡眠・生活リズム

９　乳児の生活・排泄・着脱

１０　乳児保育の基本とその歴史的変遷

１１　乳児保育の基本とその歴史的変遷

１２　乳児保育における基本的知識と援助

１３　保育者と保護者との連携

１４　保育者と保護者との連携

１５　まとめ（重要事項の確認）

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など）
松本園子編著「乳児の生活と保育」ななみ書房　大庭幸夫監修「保育所保育指針ハンドブック」学習研究社	定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。
実務経験のある教員による授業	精神保健福祉士。乳児院に勤務している。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 乳児保育Ⅱ		授業の種類 演習	授業担当者 中野 良子
授業の回数 １０回	時間数（単位数） １５時間　１単位	配当学年・時期 ３学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
乳児期の子どもの発達について学びその生活や遊びについて理解する。
〔授業全体の内容の概要〕
乳児（２歳児までの子ども）がどのように育つのか、大人を含めた周囲の環境のありようも含めて学ぶ。また、保育所での生活の仕方、その時の保育者の配慮などについても学ぶ。
〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
１．保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題について説明できる。
２．乳児（２歳児までの子ども）の発育・発達について学び、健やかな成長を支える乳児の生活と遊びについて説明できる。
３．乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等について説明できる。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法
１　乳児保育における基本的知識と援助
２　乳児の発達と保育（１）（０歳児前半）
３　乳児の発達と保育（２）（０歳児後半）
４　乳児の発達と保育（３）（１歳児前半）
５　乳児の発達と保育（４）（１歳児後半）
６　乳児の発達と保育（５）（２歳児）
７　ことばの発達と保育者の対応
８　ことばの発達と保育者の対応
９　グループ学習：親と保育者のロールプレイ
１０　グループ学習：親と保育者のロールプレイ
１１　発達の遅れと向き合う
１２　発達の遅れと向き合う
１３　沐浴人形を使用しての実践
１４　沐浴人形を使用しての実践
１５　まとめ（重要事項の確認）
※なお、このシラバスの番号は内容を示したもので、回数とは一致しない。

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
松本園子編著「乳児の生活と保育」ななみ書房　大庭幸夫監修「保育所保育指針ハンドブック」学習研究社	（試験やレポートの評価基準など）

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
子どもの健康と安全		演習	伊藤　舞美
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　１単位	配当学年・時期 ２学年　後期	必修・選択 必修

〔授業の目標〕

１．保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。

２．保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。

３．子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。

４．保育における感染症対策について、具体的に理解する。

５．保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、子どもの発達や状態等に即した対応を具体的に理解する。

６．子どもの健康・安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画・評価等を具体的に理解する。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

１　（１）子どもの健康と保育の環境

２　（２）子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理

３　（１）衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理

４　（２）災害への備え

５　（１）体調不良や傷害が発生した場合の対応

６　（２）応急処置及び救急蘇生法

７　（１）感染症の集団発生の予防

８　（２）感染症発生時と罹患後の対応

９　（１）保育における保健的対応の基本的な考え方

１０　（２）３歳未満時への対応

１１　（３）個別的な配慮を要する子どもへの対応（慢性疾患、アレルギー性疾患等）

１２　（４）障害のある子どもへの対応

１３　（１）職員間の連携・協働と組織的取組、保育における保健活動の計画及び評価

１４　（２）母子保健・地域保健における自治体との連携

１５　（３）家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携

※なお、このシラバスの番号は内容を示したものであり、回数とは一致しない。

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
「新　保育士養成講座　第７巻子どもの保健」全国社会福祉協議会出版会	（試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

<table>
<tr><td colspan="2">授業のタイトル（科目名）

保育実習Ⅰ（施設）</td><td>授業の種類

実習</td><td>授業担当者

福本 敏宏</td></tr>
<tr><td>授業の回数
１２日間</td><td>時間数（単位数）
８０時間　２単位</td><td>配当学年・時期
３学年　前期</td><td>必修・選択
必修</td></tr>
<tr><td colspan="4">〔授業の目的・ねらい〕
自分なりの保育観や子ども観を深め確立する。
〔授業全体の内容の概要〕
「保育実習」は保育士資格を取得するために児童福祉施設（保育所以外）で行う実習である。乳児院・児童養護施設、母子生活支援施設などの養護施設や障害児入所施設・障害者支援施設などの障害者施設で実習を行う。１２日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ。①施設における１日の流れ　②子どもや障害者への理解を深める　③施設保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ　④施設の技術や記録方法について実践的に学ぶ　⑤保育士を志すものとして自覚を高める
〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
施設現場で養護と療育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるか理解することができる。　実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
保育実習Ⅰの「施設実習」では以下の観点から施設における保育がどのようになされているかを理解する。
１．施設の内容、機能について理解する。（１日の流れ、子どもや障害者の活動など）
２．施設保育士の職務内容および役割、また他の職員とのチームワークなどの理解
３．子どもや障害者を取り巻く社会や家族の問題について理解する。
４．日誌の書き方を学ぶ
担当保育の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加すること。</td></tr>
<tr><td colspan="2">〔使用テキスト・参考文献〕
「幼稚園、保育所、児童福祉施設実習ガイド」石橋裕子他　同文書院</td><td colspan="2">〔単位認定の方法及び基準〕
（試験やレポートの評価基準など）
実習の評価方法は、実習園の評価に加え、実習日誌や事後レポートなどの提出物などの総合的な評価によってＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅの５段階評価としＥを不合格とする。</td></tr>
</table>

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
保育実習Ⅱ		実習	福本　敏宏
授業の回数 １２日間	時間数（単位数） ８０時間　２単位	配当学年・時期 ３学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
既習の上に自分なりの保育観や子ども観を深め確立する。

〔授業全体の内容の概要〕
「保育実習Ⅱ」では、前回の保育所実習を生かし、子どもの年齢や発達に応じた保育展開、状況に応じた保育の実践、さらに子育て支援としての保育所の役割を踏まえた保育実践に努める。「保育実習Ⅱ」を履修するためには「保育実習参加資格」の条件を満たさなければならない。また「保育実習Ⅰ」を終えておかなければならない。

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
「保育実習Ⅰ」を通して学んだ技術と理論を基礎として、保育士として必要な資質、能力、技術を向上させる。子育て支援をするために必要な知識・技術とニーズに対する理解力・判断力を養うことができる。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
保育実習Ⅱでは以下の観点から保育士としての実践力を高めていくよう努める。
１．子どもの年齢や発達に応じた保育や遊びの展開を行う。
２．その場の状況に応じた子どもへの対応と保育について理解する。
３．問題のある子どもや保護者に対する対応について理解する。
４．延長保育や休日保育、育児相談など子育て支援事業の理解。
５．保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等の実践と理解。(部分実習、全日実習、査定実習)
６．保育士としての自己の課題を明確化する。
できるだけ、部分実習や全日実習を行い、実践力を養うよう努めること。

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など）
「幼稚園、保育所、児童福祉施設実習ガイド」石橋裕子他　同文書院	実習の評価方法は、実習園の評価に加え、実習日誌や事後レポートなどの提出物などの総合的な評価によって、A・B・C・D・Eの５段階評価としＥを不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
保育実習事前事後指導Ⅱ		演習	飯塚 京子
授業の回数 １０回	時間数（単位数） １５時間　１単位	配当学年・時期 ３学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
実習に対し、積極的に活動できるようお互いの意識を高める
保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。
〔授業全体の内容の概要〕
既習の教科全体の知識・技能を基礎にし実践力を養う。
〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
実習の報告を行うことで、保育の理解を深める。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数
1　保育実習Ⅱの意義
2　実習施設の機能（保育所）
3　保育実習調査表記入
4　実習に行く施設の理解
5　年齢別活動内容について（グループ・ワーク）
6　年齢別活動内容について（グループ・ワーク）
7　部分実習および責任実習について
8　学内オリエンテーション
9　振り返り（１）
10　振り返り（２）
11　振り返り（３）
12　カードゲーム作成
13　カードゲーム作成
14　手品あそびについて
15　求められる保育者像について
※なお、このシラバスの番号は内容を示したものであり、回数とは一致しない。

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
「幼稚園、保育所、児童福祉施設実習ガイド」石橋裕子他　同文書院	（試験やレポートの評価基準など） 実習の評価方法は、実習園の評価に加え、実習日誌や事後レポートなどの提出物などの総合的な評価によって、A・B・C・D・Eの５段階評価としＥを不合格とする。
実務経験のある教員による授業	幼稚園教諭、小学校教諭資格。保育園に勤務していた。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
特別講義Ⅰ・Ⅱ		演習	吉田　小由美ほか
授業の回数 ３０回	時間数（単位数） ６０時間　２単位	配当学年・時期 １学年　前期・後期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
前期　日常生活に必要な手縫いの技術と布を使った手作りおもちゃの製作
後期　まちふく劇に取り組み、福祉についての理解を深める

〔授業全体の内容の概要〕
作品を仕上げ、様々な技法を身に付ける。また、互いに強調して劇づくりをする。

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
手縫いの方法、手芸の技能の習得
劇づくりの参加と発表

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数

１　２　ガイダンス、フラワーアレンジメント
３　４　基礎縫い
５　６　基礎縫い
７　８　軍手のトコトコ人形
９　１０　名札製作
１１　１２　名札製作
１３　１４　名札製作
１５　１６　まちふく劇の概要
１７　１８　グループ内での打ち合わせ
１９　２０　脚本の完成
２１　２２　劇の練習
２３　２４　劇の練習
２５　２６　劇の練習
２７　２８　リハーサル
２９　３０　劇の発表

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など）
プリント	定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

<table>
<tr><td colspan="2">授業のタイトル（科目名）
音楽Ⅱ（リトミック）
（告示等による教科目名）
教養科目</td><td>授業の種類

演習</td><td>授業担当者

佐々木　優子</td></tr>
<tr><td>授業の回数
３０回</td><td>時間数（単位数）
６０時間　２単位</td><td>配当学年・時期
１学年　前期・後期</td><td>必修・選択
必修</td></tr>
<tr><td colspan="4">〔授業の目的・ねらい〕
身体活動（リズム運動）を通し音楽に反応することで、音楽諸要素の体得、心身の開放、感覚機能の発達をのばす。

〔授業全体の内容の概要〕
身体活動（リズム運動）を通し音楽に反応させる。

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
ソルフェージュ・即興への発展により音楽感覚を磨き、豊かな表現力を養う。</td></tr>
<tr><td colspan="4">〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数
１　　２　身体への意識いろいろな速さ　身体各部への意識　いろいろな速さ
時間―空間―エネルギーの関係を意識
３　　４　拍　一定の拍の維持
５　　６　基礎リズム
７　　８　強弱・速さ　色々な強弱・速さ
９　　１０　強弱・速さ　強弱・速さの段階的変化
１１　１２　強弱・速さ　時間―空間―エネルギーの関係変化を意識
１３　１４　アクセント・拍子　不規則なアクセント、規則的なアクセント、拍子
１５　１６　４拍子のリズムパターン　４拍子の色々なリズムパターン
１７　１８　３拍子のリズムパターン　３拍子の色々なリズムパターン
１９　２０　２拍子のリズムパターン　２拍子の色々なリズムパターン
２１　２２　フレーズ　フレーズのまとまり感、色々な長さのフレーズ
２３　２４　リズムフレーズ２・３・４拍子のリズムフレーズ
２５　２６　ポリリズム　基礎リズム×基礎リズム、基礎リズム×リズムパターンのポリリズム
２７　２８　カノン　断続・連続カノン
２９　３０　まとめ</td></tr>
<tr><td colspan="2">〔使用テキスト・参考文献〕
プリント</td><td colspan="2">〔単位認定の方法及び基準〕
（試験やレポートの評価基準など）
定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。</td></tr>
</table>

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 音楽Ⅲ （告示等による教科目名） 保育の表現技術		授業の種類 演習	授業担当者 五日市 田鶴子　増田 千夏 梶浦 晃代　堀口 弥生
授業の回数 ３０回	時間数（単位数） ６０時間　２単位	配当学年・時期 ２学年　前期・後期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕

１つのメロディにも様々な伴奏法があることを学ぶ

〔授業全体の内容の概要〕

豊かな表現で周囲の人々と心を１つにできる弾き歌いを研究する。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕

ピアノ演奏の技術のみでなく、たくましい精神力をも修得する。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

コマ数

1　こいのぼり、ぞうさん、おかあさん、さよならのうた、おはよう
2　ちゅうりっぷ、ことりのうた、かたつむり
3　あくしゅでこんにちは、はをみがきましょ、おつかいありさん
4　あめふりくまのこ、アイアイ、おべんとう
5　めだかのがっこう、大きな古時計
6　おかえり、ふしぎなポケット
7　とけいのうた、おもちゃのチャチャチャ
8　かぜさんだって、しゃぼんだま
9　うちゅうせんのうた、とんぼのめがね
10　たなばた、せっけんさん
11　トマト、たんじょうび
12　森のくまさん、せんせいとおともだち
13　ありさんのお話
14　犬のおまわりさん、チェルニー３０番より№５or№２９
15　そうだったらいいのにな、いもほりのうた
16　まっかな秋、小さい秋みつけた
17　どんぐりころころ、ずいずいずっころばし
18　大きなたいこ、きのこ
19　たき火、こんこんくしゃん
20　大きなくりのきのしたで、もみじ
21　まつぼっくり、やぎさんゆうびん
22　はたけのポルカ、おんまはみんな
23　おもちゃのマーチ、こぎつね
24　あわてんぼうのサンタクロース、ジングルベル
25　てのひらをたいように、サンタクロース
26　雪のペンキやさん、思いでのアルバム

27　お正月、まめまき 28　さんぽ、うれしいひなまつり 29　一年生になったら 30　きのいいあひる

〔使用テキスト・参考文献〕 バイエル教本	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 国語 （告示等による教科目名） 保育の表現技術		授業の種類 演習	授業担当者 阿部　聖史
授業の回数 ３０回	時間数（単位数） ６０時間　２単位	配当学年・時期 １学年　前期・後期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
言葉や基本的な文章表現を理解する。文章の構造を意識しながら読むことができる。
敬語を理解し、使うことができる。
〔授業全体の内容の概要〕
助詞、文末、要約、敬語について、理解を深めるために、プリントで問題を解いていく。
〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕
言葉や基本的な文章表現を理解する。文章の構造を意識しながら読むことができる。
敬語を理解し、使うことができる。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数
1　ガイダンス
2　言葉の意味・使い分け
3　言葉の意味・使い分け
4　助詞「は」と「が」の役割
5　助詞「は」と「が」の役割
6　助詞「は」と「が」の使い分け
7　文末の「のである」と「だ」の役割
8　文章の骨格
9　文章の骨格
10　文章の理解・要約
11　文章の要約
12　敬語の基本
13　敬語の基本
14　敬語の使い方
15　まとめ
16　物語の創作　文章を書くこととは
17　物語の創作　文章を書くこととは
18　物語の形式　子どもの想像力と発達
19　物語の形式　物語の法則性について
20　物語の形式　画像から台詞を考える
21　キャラクター①　キャラクターとは何か
22　キャラクター①　移行対象について

23　キャラクター②　キャラクターを作る 24　物語の構成　現代の物語とキャラクター 25　物語の構成　レトリックについて 26　物語の実作　作品の登場人物や舞台を設定し、ストーリーを構成する 27　物語の実作　物語（の梗概）を書く 28　物語の鑑賞　完成した作品を互いに読み、コメントを記入しつつクラス内で回覧する。 29　寓話と歴史　物語とキャラクター（の表現・消費）が持つ意味 30　想像・遊び・言葉　想像力と遊びと言葉の関係	
〔使用テキスト・参考文献〕 プリント	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
教育実習指導		演習	飯塚 京子　江頭 眞喜子
授業の回数 ３０回	時間数（単位数） ６０時間　２単位	配当学年・時期 １学年　後期　２学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕

２年次前期の教育実習に向けて、実習についての理解を深める。

〔授業全体の内容の概要〕

実習に向けての準備を行う。

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕

実習に必要な知識と技術について知る。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

コマ数

1　文章を読む、書く
2　実習とは、幼稚園と保育所
3　実習までに学びたいこと
4　同上
5　観察の仕方
6　記録のとり方
7　保育園見学
8　記録・見学の振り返り
9　実習までにしておくこと　（絵本）
10　（紙芝居）
11　（日誌）
12　（子ども理解）
13　（気になる子ども）
14　（手遊び・ペープサート）
15　まとめ
16　事前オリでの疑問の確認・実習の目的
17　実習の目的・心得　読み合わせ
18　日誌の書き方　各実習時のポイント（観察・参加・部分）
19　日誌の書き方
20　日誌の書き方・履修カルテ
21　日誌の中身の確認
22　お礼状・履修カルテ
23　実習報告会
24　振り返り
25　実習振り返りの内容に応じて
26　同上

27　同上 28　同上。 29　実技・日誌等の振り返り 30　まとめ	
〔使用テキスト・参考文献〕 プリント	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 実習・提出物・授業態度
実務経験のある教員による授業	保育園の副園長として勤務していた。

授　業　概　要

<table>
<tr><td colspan="2">授業のタイトル（科目名）
児童館実習指導</td><td>授業の種類
演習</td><td>授業担当者
外岡 博之</td></tr>
<tr><td>授業の回数
１５回</td><td>時間数（単位数）
３０時間　２単位</td><td>配当学年・時期
２学年　前期</td><td>必修・選択
必修</td></tr>
<tr><td colspan="4">〔授業の目的・ねらい〕
児童館への理解を深め、興味を持つ。
〔授業全体の内容の概要〕
児童館の役割、地域連携や保育の必要性を学ぶ
〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
児童館への理解を深め、興味をもって実践に活かすことができるようになる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
1　日誌作成・心得の読み合わせ
2　児童館の役割について
3　児童館ガイドライン読み合わせ
4　仕事の理解・子どもの様子
5　子どもに合わせた遊びの展開
6　昔あそび　グループワーク
7　昔あそび　グループワーク
8　昔あそび　グループワーク
9　昔あそび　グループワーク
１０　指導案作成指導
１１　指導案作成指導
１２　指導案作成発表　お礼状の書き方指導
１３　児童館における課題　お礼状の書き方指導
１４　児童館における課題　お礼状の書き方指導
１５　まとめ</td></tr>
<tr><td colspan="2">〔使用テキスト・参考文献〕
プリント</td><td colspan="2">〔単位認定の方法及び基準〕
（試験やレポートの評価基準など）
定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">実務経験のある教員による授業</td><td colspan="2">スクールカウンセラーとして、中学・高等学校に勤務していた。</td></tr>
</table>

授　業　概　要

<table>
<tr><td colspan="2">授業のタイトル（科目名）
保育実習指導</td><td>授業の種類
演習</td><td>授業担当者
飯塚　京子</td></tr>
<tr><td>授業の回数
１５回</td><td>時間数（単位数）
３０時間　２単位</td><td>配当学年・時期
２学年　後期</td><td>必修・選択
必修</td></tr>
<tr><td colspan="4">〔授業の目的・ねらい〕
保育所における保育実習に必要な知識について理解する
〔授業全体の内容の概要〕
保育所実習に向けての準備及び実習後の振り返り。
〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
実習において必要な知識・技術・態度を身に付ける。</td></tr>
<tr><td colspan="4">〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
1　オリエンテーション
2　保育実習とは
3　実習園が実習生に期待すること
4　日誌の書き方
5　日誌の書き方・心構え
6　学内オリエンテーション
7　お礼状を書く
8　実習報告会
9　実習振り返り
１０　保育実技
１１　保育実技
１２　施設実習に向けて
１３　施設実習に向けて
１４　施設実習に向けて
１５　まとめ</td></tr>
<tr><td colspan="2">〔使用テキスト・参考文献〕
プリント</td><td colspan="2">〔単位認定の方法及び基準〕
（試験やレポートの評価基準など）
出席・授業態度・実習評価・提出物</td></tr>
<tr><td colspan="2">実務経験のある教員による授業</td><td colspan="2">保育園の副園長として勤務経験あり。</td></tr>
</table>

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 施設実習指導		授業の種類 演習	授業担当者 福本　敏宏
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　２単位	配当学年・時期 ３学年　前期	必修・選択 必修
〔授業の目的・ねらい〕 各施設への理解と実践 〔授業全体の内容の概要〕 各施設を調査し知識を深める。また、調べた施設を発表し、共通理解を深める。 〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕 各施設への予備知識を実践で活かし、より深い実践へと結びつける。			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 １　日誌作成・心得・実習で注意すべきことの読み合わせ。　資料配布・グループワーク ２　施設について事前に調べたものを発表。　グループワーク ３　施設について事前に調べたものを発表。　グループワーク ４　施設について事前に調べたものを発表。　グループワーク ５　施設について事前に調べたものを発表。　グループワーク ６　実習日誌記録指導　お礼状の書き方指導 ７　実習日誌記録指導　お礼状の書き方指導 ８　実習振り返り ９　実習振り返り １０　実習振り返り １１　発達に関わる課題 １２　発達に関わる課題 １３　保育実習について（日誌作成・心得の読み合わせ） １４　保育実習の準備 １５　まとめ			
〔使用テキスト・参考文献〕 プリント		〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 出席・授業態度・実習評価・提出物	
実務経験のある教員による授業		スクールカウンセラーとして、中学・高等学校に勤務していた。	

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 児童館・放課後児童クラブの 機能と運営		授業の種類 講義	授業担当者 鈴木　良東
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　２単位	配当学年・時期 １学年　後期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
児童館・放課後児童クラブの機能と活動内容について理解し、児童健全育成活動の基礎的な知識・技能を修得し、その役割について学ぶ。
〔授業全体の内容の概要〕
児童館・放課後児童クラブの歴史と概要、児童館・放課後児童クラブの実際（町田市の例を参考)、子どもの発達と遊び、職員の専門性、児童福祉法、子どもの人権等について学ぶ。
〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
児童館・放課後児童クラブは何をするところで、児童厚生員の役割とは何か、児童の安全管理と児童の成長・発達について理解する。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
１授業の概要
２児童館・放課後児童クラブの歴史と概要
３児童館・放課後児童クラブの機能
４児童館・放課後児童クラブの機能
５職員の専門性
６職員の専門性
７職員の専門性
８職員の専門性
９児童福祉法
１０児童福祉施設における子どもの人権
１１少子化と地域福祉
１２施設運営のポイント
１３事業運営のポイント
１４児童厚生員のあり方
１５まとめ

〔使用テキスト・参考文献〕 プリント	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。
実務経験のある教員による授業	幼稚園教諭。児童館の館長経験あり。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 児童館・放課後児童クラブの 活動内容と指導法Ⅰ		授業の種類 講義	授業担当者 鈴木 良東
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　２単位	配当学年・時期 ２学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
講義と演習を通して児童館および放課後児童クラブの活動内容と指導法を理解する。

〔授業全体の内容の概要〕
講義だけでなく演習（ロールプレイや実技）を通し、指導法を理解する。

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
新人職員として働ける知識・技術・心構えを身につける。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
1 児童館・児童クラブでの集団あそびやゲーム会の実際
2 健全育成論
3 児童館でのあそびと子ども対応Ⅰ（自由あそびを中心に）
4 児童館でのあそびと子ども対応Ⅱ（自主企画・実行委員会・グループ活動等）
5 児童館での子ども対応の実際（ゲストティーチャーから学ぶ）
6 児童館職員の援助技術（ケースワーク・グループワーク・コミュニティーワーク）を知る
7 気になる子への対応　年齢に応じた対応
8 児童館における乳幼児親子支援（子育て支援）を学ぶ
9 地域連携とネットワークづくり
１０放課後児童クラブの活動内容と指導法
１１放課後児童クラブでの運営の実際（ゲストティーチャーから学ぶ）
１２保護者への対応
１３障害児の育成支援
１４レポート作成
１５まとめ

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など）
『あそびの宝物』 『赤ちゃんが教室にきたよ』 『子どもの主体的活動』 『障害児の育成支援』他（鈴木良東　著）	定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。
実務経験のある教員による授業	中学校教諭資格。こどもセンター館長経験あり。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
児童館実習		実習	福本敏宏
授業の回数 １０日間	時間数（単位数） ８０時間　２単位	配当学年・時期 ２学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
児童館実習を通して、児童健全育成の実際の取り組みを経験し、理解を深める。

〔授業全体の内容の概要〕
「児童館実習」は、児童厚生員の資格を取得するために児童館・児童クラブで行う実習である。
１０日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ。①施設における１日の流れ　②子どもや保護者、地域社会への理解を深める　③職員の業務内容や職業倫理について学ぶ　④施設の技術や記録方法について実践的に学ぶ　⑤子どもの健全育成に携わる保育者・教育者を志すものとして自覚を高める

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
児童館の現場を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、実践と具体的にどのように繋がるか理解することができる。　実践を通じて、技術、能力を向上させる。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
「児童館実習」では以下の観点から施設における保育がどのようになされているかを理解する。
１．施設の内容、機能について理解する。（１日の流れ、子どもの活動など）
２．職員の職務内容および役割、また他の職員とのチームワークなどの理解
３．子どもや保護者を取り巻く社会や家族の問題について理解する。
４．日誌の書き方を学ぶ
担当者の指導や助言に従い、積極的に児童館実習に参加すること。

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など）
「幼稚園、保育所、児童福祉施設実習ガイド」石橋裕子他　同文書院	実習の評価方法は、実習園の評価に加え、実習日誌や事後レポートなどの提出物などの総合的な評価によってＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅの５段階評価としＥを不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） レクリエーション活動援助法		授業の種類 演習	授業担当者 長田 淳子
授業の回数 ３０回	時間数（単位数） ６０時間　２単位	配当学年・時期 ２学年　前期・後期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
レク支援の特色は暮らしを豊かにする楽しみの場を提供することにある。その特色を生かし、支援のための具体的な方法を身に付ける。

〔授業全体の内容の概要〕
様々な活動を通して発見と挑戦を繰り返す中で、遊びについての考え方を学ぶ。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕
アイスブレーキングの意味と体験、様々な活動と遊びの意義を学ぶ。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
1　資格の説明、活動内容、
2　自己紹介ゲーム
3　チャレンジ・ザ・ゲーム１
4　チャレンジ・ザ・ゲーム２
5　チャレンジ・ザ・ゲーム３
6　道具を使わない遊び
7　アイスブレーキング１
8　アイスブレーキング２
9　アイスブレーキング３
１０　今までの活動のまとめ　「遊びカード」の作成
１１　同上　２
１２　同上　３
１３　スポーツレクリエーション
１４　スポーツレクリエーション
１５　まとめ
１６　障がい者のスポーツ①
１７　障がい者のスポーツ②
１８　幼児のダンス、手話ソング
１９　スポーツレクリエーション
２０　伝承遊び
２１　子どもの遊び
２２　プログラム作り
２３　プログラム作り

２４　発表① ２５　発表② ２６　発表③ ２７　発表④ ２８　発表⑤ ２９　発表⑥ ３０　まとめ	
〔使用テキスト・参考文献〕 プリント他	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
児童文化Ⅰ		演習	江頭 眞喜子
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　１単位	配当学年・時期 ２学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕

児童文化は、文化全般の中で子ども達に関わる領域の文化であり、子ども達のために作り出されたものや子ども達自身が作り出したものが、生活の中で育まれ、伝承していくものである。現在の学校教育偏重の子どもの生活の中で、この児童文化の重要性を十分に認識し、内容を把握し、時間の許す限り実習も行い、児童文化の分野の実践的な指導ができるようになることを目標とする。

〔授業全体の内容の概要〕

児童文化とは何か、歴史を追いながら考えるとともに、現在の児童文化についての知識を深める。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕

普段から、児童文化や児童文化財に触れ、子ども達にとって望ましい児童文化や児童文化財に興味・関心を持ち、作ることができるようになる。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

1　児童文化とは何か。児童憲章における児童文化。歴史にみる子どもの存在。
2　日本での児童文化の確立。現代の児童文化。
3　グループに分かれ、児童文化財の製作①
4　グループに分かれ、児童文化財の製作①
5　グループに分かれ、児童文化財の製作②
6　グループに分かれ、児童文化財の製作②
7　グループに分かれ、児童文化財の製作③
8　グループに分かれ、児童文化財の製作③
9　グループに分かれ、児童文化財の製作④
10　グループに分かれ、児童文化財の製作④
11　グループに分かれ、児童文化財の製作⑤
12　グループに分かれ、児童文化財の製作⑤
13　部分的な指導計画案作成及び練習①
14　部分的な指導計画案作成及び練習②
15　部分的な指導計画案作成及び練習③

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など）
プリント	定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
児童文化Ⅱ		演習	江頭 眞喜子
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　１単位	配当学年・時期 ３学年　後期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
児童文化財を作り、作ったもので表現活動をする。

〔授業全体の内容の概要〕
保育現場で使える技術について学ぶ。

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
児童文化財を活用した保育の技術・方法について理解を深める

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
1　マジックハウス
2　マジックハウス
3　お面作り
4　お面作り
5　丸を切る、デザインをする
6　壁面製作
7　壁面製作
8　折り紙製作
9　折り紙製作
10　染め紙
11　染め紙を使った製作
12　お面を使って劇を行う
13　お面を使って劇を行う
14　お面を使って劇を行う
15　まとめ

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など）
プリント	作品提出・授業内発表

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
児童文化Ⅲ		演習	江頭 眞喜子　他
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　１単位	配当学年・時期 ３学年　後期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
実習に活かせる製作（作品・表現）・実践活動
〔授業全体の内容の概要〕
現場実践を想定させるための指導と活動を取り入れる。
〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕
児童文化財についての理解をひろげる。
保育現場で実際に行えるものについて検討し、実践につなげる。
仲間と協同して取り組む。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数

1　オリエンテーション
2　教材と準備材料を使って
3　動くくるま
4　カラ　ボウリング
5　ストローロケット
6　パネルシアター製作について
7　台本仕上げ・作品下書き
8　作品製作（下書き）
9　　（色塗り）
10　　（色塗り他）
11　新聞紙あそびを考える
12　新聞紙あそびの製作
13　新聞紙あそびの実践
14　同上
15　まとめ

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
・保育雑誌 ・ラクラクかんたんペープサート	（試験やレポートの評価基準など） 活動内評価

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
保育教材研究		講義	江頭 眞喜子
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　１単位	配当学年・時期 ３学年　後期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
実習や保育現場で使えるものを作る。

〔授業全体の内容の概要〕
指導案を書き、実際に作り遊んでみる。

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
保育現場で使える知識。技術を身に付ける。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数

1　初回オリエンテーション、ふしぎな部屋
2　ふしぎな部屋（指導案も書く）
3　紙皿製作の指導案
4　紙皿製作
5　お誕生日カード作り（立体）
6　折り紙（季節に合わせて）
7　これまで（１～３年）に作ったものを演じる・遊ぶ
8　共同作品を作る
9　共同作品を演じる
10　折り紙（季節に合わせて）
11　廃材工作
12　六角返しを作って遊ぶ　指導案
13　同上
14　保育における教材の意義
15　まとめ

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など）
随時プリントを配布する。	定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
図画工作Ⅰ		演習	谷口　祐子
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　１単位	配当学年・時期 2学年　後期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
幼児の絵画造形教育に必要な基礎知識と表現技法の習得

〔授業全体の内容の概要〕
材料や用具、様々な技法について体験し理解する。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕
遊びとしての造形活動のありかたを考え、幼児と共に楽しむためのヒントを与える。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数
1　図画工作Ⅰについての導入、自己紹介カードをつくる。図画工作Ⅰで何を学ぶかの説明
2　描画用具、紙の種類と用途についての説明。キラキラ絵の具を作ろう。
3　粘土の種類と表現方法
4　粘土の種類と表現方法
5　粘土をつかって立体製作　ジオラマを創ろう。
6　粘土をつかって立体製作　ジオラマを創ろう。
7　粘土をつかって立体製作　ジオラマを創ろう。
8　粘土をつかって立体製作　ジオラマを創ろう。
9　まとめのレポート
10　絵本をつくる
11　絵本をつくる
12　絵本をつくる
13　絵本をつくる
14　色彩の基本　色相環をつくる
15　色彩の基本　色相環をつくる

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など）
なし	定期試験を実施し、SA（90点以上)、A（80点以上）B（79～70点）C（69～60点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
図画工作Ⅱ		演習	谷口　祐子
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　１単位	配当学年・時期 ３学年　前期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
幼児の絵画造形教育に必要な基礎知識と表現技法の習得

〔授業全体の内容の概要〕
材料や用具、様々な技法について体験し理解する。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕
遊びとしての造形活動のありかたを考え、幼児と共に楽しむためのヒントを与える。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数
1　図画工作Ⅱについての導入、自己紹介カードをつくる。図画工作Ⅱで何を学ぶかの説明
2　描画用具、紙の種類と用途についての説明。キラキラ絵の具を作ろう。
3　粘土の種類と表現方法
4　粘土の種類と表現方法
5　粘土をつかって立体製作　ジオラマを創ろう。
6　粘土をつかって立体製作　ジオラマを創ろう。
7　粘土をつかって立体製作　ジオラマを創ろう。
8　粘土をつかって立体製作　ジオラマを創ろう。
9　まとめのレポート
10　絵本をつくる
11　絵本をつくる
12　絵本をつくる
13　絵本をつくる
14　色彩の基本　色相環をつくる
15　色彩の基本　色相環をつくる

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など）
なし	定期試験を実施し、SA（90 点以上)、A（80 点以上）B（79～70 点）C（69～60 点）以上を合格とし D(59 点以下)を不合格とする。

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
図画工作Ⅲ		演習	吉田 小由美
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　１単位	配当学年・時期 ３学年　後期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕

実習で活用する作品の製作。

独創性のある作品を考案し、共有する。

〔授業全体の内容の概要〕

作品の製作と完成

現場実践を想定し、その指導と活動（発表）を取り入れる

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕

独自の作品の完成

作品を使った発表

振り返り

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

コマ数

１　オリエンテーション

２　劇場型紙芝居の意義について

３　パネルシアター製作について

４　作品の下書き、シナリオづくり

５　同上

６　同上

７　作品製作

８　同上

９　同上

１０　同上

１１　作品製作終了、発表練習

１２　発表

１３　発表

１４　季節毎の製作物

１５　同上

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
なし	（試験やレポートの評価基準など） 作品製作と発表

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
卒業対策		演習	吉田　小由美
授業の回数 １５回	時間数（単位数） ３０時間　１単位	配当学年・時期 ３学年　後期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
保育の現場で役立つエプロンシアターを制作し、その自分で制作したエプロンシアターを演じられるようにさせる。
〔授業全体の内容の概要〕
作品を制作することによりその中のさまざまな技法を修得し、発表を通して演じ方を学ぶ。
〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕
・エプロンシアターの基本的な制作方法を修得する。
・エプロンシアターを演じられるように表現力を身につける。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数
1　ガイダンス・作品についての説明と布地等の選択
2
3　　エプロンシアター制作
4　　現場で役立つエプロンシアターを製作する
5　　・エプロンの作り方の習得と、お話の登場人物の人形の作り方の習得。
6　　・自分で作ることによりそのお話にあった人形の大きさや背景の位置、
7　　ポケットの大きさなど、演じやすさやお話の分かりやすさを理解する。
8　　・自分で製作したエプロンシアターを演じられるように発表をする。
9
10
11
12
13
14
15　作成したエプロンシアターの発表（演じる）

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
・文化ファッション講座 ・エプロンシアター	（試験やレポートの評価基準など） ・作品の仕上がり ・作品の提出期限 ・作品に取り組む姿勢と意欲

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 卒業研究（ゼミナール）		授業の種類 演習	授業担当者 学科内の専任教員
授業の回数 ３０回	時間数（単位数） ６０時間　２単位	配当学年・時期 ３学年　前期・後期	必修・選択 必修

〔授業の目的・ねらい〕
卒業発表に向けて各自のテーマを見つけるとともに発表方法について理解する。

〔授業全体の内容の概要〕
ゼミ全体のテーマについて検討し、共通理解をはかる。

〔授業修了時の達成課題（到達目標)〕
・卒業発表に向けての取り組み・プロセスの重視
・卒業発表の実演

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
コマ数
１・２　ゼミ概要・卒業発表に向けての予定を立てる
３・４
５・６　　（前期は主にゼミナール、後期は卒業発表に向けての取り組み）
７・８
９・１０
１１・１２
１３・１４
１５・１６
１７・１８
１９・２０
２１・２２
２３・２４　リハーサル前のチェック
２５・２６　リハーサル前のチェック
２７・２８　リハーサル
２９・３０　卒業発表会

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
プリント	（試験やレポートの評価基準など） ・授業態度 ・卒業発表 ・仲間とともに取り組む姿勢と意欲